

Port of Kitakyushu The 130th Anniversary

北九州の港史・追録Ⅲ

2010年～2019年

北九州市港湾空港局

目 次

I 10年間のトピックス

1 港の整備等（各地区の状況）	1 頁
（1）新門司地区 新門司Ⅱ期地区（マリナクロス新門司）／津村島緑地の整備／新門司4・5号岸壁の耐震化／ 新門司北6-9号岸壁の国際埠頭施設化／新規フェリー航路（新門司港～横須賀港）の開設計画	
（2）白野江地区 白野江人工島計画の廃止／白野江地区護岸の整備	
（3）太刀浦地区 太刀浦コンテナターミナルの整備／太刀浦幹線1号道路の整備／太刀浦10号クレーンの供用開始	
（4）西海岸地区 関門海峡ミュージアムのリニューアルオープン／旧大連航路上屋の整備	
（5）大里地区 大里第2船だまりの整備	
（6）砂津地区 砂津緑地の整備	
（7）赤坂地区 延命寺護岸緑地の整備	
（8）戸畑地区 新若戸道路の整備／川代埠頭の再整備	
（9）若松地区 奥洞海航路の浚渫／若松船だまりの整備	
（10）響灘東地区 響灘東D地区の竣功／新響灘大橋の整備／響灘東地区処分場の整備／響灘南緑地の整備	
（11）響灘西地区（ひびきコンテナターミナル） 水深10m岸壁の多目的活用／響灘西防波堤の整備	
2 港の管理・運営・振興	8 頁
（1）市民PR 船舶の一般公開／海の日記念行事／くきのうみ花火の祭典、関門海峡花火大会／北九州港マスコットキャラクター「スナQ」／北九州港ホームページ／「若松港築港関連施設群」土木学会 選奨土木遺産に認定	
（2）北九州港開港130周年記念事業 記念式典、記念講演会／プレイベント／開港130周年記念事業	
（3）みなとオアシス門司港の登録 みなとオアシス門司港について／Sea級グルメ	
（4）市民参加によるみなとまちづくり 北九州市海辺利用促進会議／市民参加による洞海湾の環境修復検討事業／みなとや海辺の活 動支援／北九州港みなとや海辺づくり大賞	

- (5) 市民太陽光発電所・市民還元事業
起工式、地鎮祭／竣工式／市民還元事業
- (6) 航路の開設等
クルーズ客船の誘致／外航コンテナ航路の開設状況／ポートセールス／姉妹港・友好港との交流／中国・韓国主要港湾とのロジスティクス・パートナー港提携／モーダルシフトの推進／自動車輸送船（PCC）の新規航路開設／東九州自動車道の開通による物流モードの充実／北九州～沖縄を結ぶ RORO 航路が開設
- (7) 企業立地の促進
臨海部埋立地への企業進出（マリナクロス新門司・響灘臨海工業団地）／株式会社ブリヂストン北九州工場（拡張）／フィード・ワン株式会社
- (8) 風力発電関連産業の総合拠点化の推進
「グリーンエネルギーポートひびき」事業／響灘地区への風力発電関連産業の集積促進事業／「響灘エネルギー産業拠点化推進期成会」設立／響灘洋上風力発電施設の設置運営に係る事業者の公募事業／五洋建設株式会社所有SEP船が北九州港を母港化／「基地港湾」整備と国による指定
- (9) 港の管理・運営・その他
港湾情報システムの機能拡充／北九州港事業継続計画（北九州港BCP）を策定／フェリー会社4社と災害時の輸送協力に関する協定を締結／グリーンアワード・プログラムへの参加／指定管理者制度の導入／第6次NACCS更改／構造改革特別区域計画「北九州港湾物流効率化特区」認定／日本海側拠点港

3 北九州空港 25 頁

- (1) 北九州空港の概要
北九州空港の概要／北九州空港旅客ターミナルビル／就航路線の充実
- (2) 北九州空港のあゆみ
航空貨物拠点化を目指す北九州空港／北九州空港のアクセスがもっと便利に／北九州空港 開港10周年／G7 北九州エネルギー大臣会合代表団が北九州空港を利用／全日本空輸（ANA）による国際貨物定期便が新規就航／大韓航空による国際貨物定期便が新規就航／訪日誘客支援空港への認定／北九州空港将来ビジョン策定・ビジョン推進強化期間

II 計画・構想

1 北九州港長期構想の策定と北九州港港湾計画の改訂 29 頁

- (1) 長期構想の策定
- (2) 港湾計画の改訂
港湾計画の変更概要

2 新・海辺のマスタープラン 32 頁

新・海辺のマスタープランの策定

Ⅲ 資料

1 港勢	33 頁
(1) 北九州港輸出入額年次別表	
(2) 北九州港海上出入貨物年次別表	
(3) 北九州港海上出入貨物輸出上位5品目の推移	
(4) 北九州港海上出入貨物輸入上位5品目の推移	
(5) 北九州港コンテナ貨物（実入）年次別表	
(6) 北九州港国際コンテナ貨物 輸出上位5品目の推移	
(7) 北九州港国際コンテナ貨物 輸入上位5品目の推移	
(8) 北九州港入港船舶年次別表	
(9) 北九州港入港フェリ一年次別表	
(10) 平成30年北九州港港勢概況	
・ 海上出入貨物品種別ベストテン（外貿、内貿）	
・ 海上出入貨物相手先ベストテン（外貿、内貿）	
・ 国際コンテナ貨物品種別ベストテン	
・ 国際コンテナ貨物相手先ベストテン	
・ 入港船舶 船種別隻数と総トン数	
・ 入港外航船舶 船籍国別隻数と総トン数	
・ 入港外航船舶 定期航路別隻数と総トン数	
(11) 北九州空港の利用状況	
2 北九州港年表（2000年～2019年）	46 頁

I. 10年間のトピックス

1 港の整備等（各地区の状況）

（1）新門司地区

・新門司Ⅱ期地区（マリナクロス新門司）

マリナクロス新門司は、西日本最大級のフェリー基地を中心とした物流拠点であり、九州自動車道新門司IC、太刀浦コンテナターミナルや北九州空港などの物流インフラにも近く、トヨタ輸送株式会社新門司自動車物流センターなど、現在約100社の物流関連施設が集積している。

また、東九州自動車道の開通により本州、九州への結節点としての優位性が高まり、西日本における重要な物流拠点としての役割を果たすことが期待される。



・津村島緑地の整備

平成25年（2013年）10月に「津村島緑地」が、供用開始した。当該緑地は、埋立地に残された緑豊かな津村島を保全・活用し、市民の憩いの場、周辺企業の従業員の休息の場として利用することを目的として整備したものである。

津村島周辺は水面を残す形で緑地整備を行い、潮の干満差によって滝のように流れる現象や昔、島を訪れる人々が島内に入る際の係留施設として利用していた防波堤なども見ることができる。



・新門司4・5号岸壁の耐震化

新門司南地区に就航している名門大洋フェリーは、1バースに2便が就航していたため、隣接する公共岸壁へのバースシフトや沖待ちなど、非効率な運用となっていた。

また、同地区においては、大規模災害時の物資輸送に利用される耐震強化岸壁が港湾計画に位置付けられていた。

これらに対応するため、既存の岸壁をフェリーによる荷役が可能な岸壁に改良し、併せて耐震強化岸壁（水深：-7.5m、延長：230m）としての整備を行い、平成27年（2015年）6月に供用開始した。

・新門司北6-9号岸壁の国際埠頭施設化

平成31年（2019年）4月、国内向け自動車輸送拠点として使用されてきた新門司北6～8号岸壁と、一般在来線の国際埠頭施設として使用されてきた新門司北9号岸壁を、新たな国際埠頭施設（RORO、その他）として一体的に運用すべく国へ申請を行い、令和2年（2020年）3月にかけて整備を進めた。

岸壁延長630m、水深7.5～10m、背後に26,910㎡の荷さばき地を持つ施設となり、今後、自動車の輸出拠点としての発展を見込んでいる。

I. 10年間のトピックス

・新規フェリー航路（新門司港～横須賀港）の開設計画

この新規フェリー航路は、北九州港新門司地区と横須賀港新港地区を約 21 時間で結ぶもので 2021 年 7 月に就航を予定している。

使用する船舶は、1 万 6 千トン級のフェリー 2 隻で、日曜日を除く週 6 便を予定している。

関東と九州の間に、新たにフェリーによる定期航路を開設することにより、昨今のドライバー不足や環境問題を背景としたモーダルシフトの受け皿として、また多様化するニーズに対応して、関東圏と九州圏を結ぶ物流や観光の活性化が期待される。

(2) 白野江地区

・白野江人工島計画の廃止

白野江人工島の計画は、平成 12 年（2000 年）度の国の公共事業見直しにより、コンテナターミナル及び岸壁整備が中止となり、また、本市の公共施設等検討委員会においても、事業化見送りの提言を受けたことから、事業化を当面の間見送ることとなっていた。平成 24 年（2012 年）の港湾計画の改訂でコンテナ輸送を取り巻く情勢の変化や、他の処分場計画の策定により浚渫土砂処分場としての役割がなくなったことから、計画を廃止した。

・白野江地区護岸の整備

白野江地区は周防灘に面し、平成 11 年（1999 年）の台風 18 号により、高潮等で甚大な被害が発生した箇所である。市民の生命や財産を守り、安全・安心を高めるため、平成 24 年（2012 年）度から、消波ブロックの設置や高潮による浸水を防ぐ機能を兼ねた緑地の整備を行い、令和元年（2019 年）度に整備が完了した。また、新門司地区についても、同様の整備を進めている。



(3) 太刀浦地区

・太刀浦コンテナターミナルの整備

太刀浦コンテナターミナルは、昭和 50 ～ 60 年（1975 ～ 1985 年）代に整備され、本市のものづくり産業やものの流れを支える重要な物流拠点である。

供用開始から 30 年以上経過した現在、コンテナの荷さばき地及び走行路の舗装の損傷が著しく、荷役作業に支障をきたしている。

このため、埠頭の安全性の確保、荷役作業の利便性の向上に加え、コンテナターミナルの強化につながる実入りコンテナ 3 段積みを可能とする蔵置能力の向上を図ることを目的に、平成 26 年（2014 年）度からコンテナターミナル内の荷さばき地等の舗装補修を行っている。



I. 10年間のトピックス

・太刀浦幹線1号道路の整備

太刀浦幹線1号道路は、太刀浦コンテナターミナルから門司、小倉方面へアクセスする臨港道路であり、本市の産業や物流を支える重要な道路である。

この道路には、コンテナ貨物を積んだ大型車両の通行が多いこともあり、近年、道路舗装等の劣化が顕著となっている。

このため、平成24年（2012年）度から、通行車両の安全性及び走行性を確保し、物流機能の維持向上を図ることを目的に道路舗装を改良している。

・太刀浦10号クレーンの供用開始

門司区太刀浦地区の太刀浦コンテナターミナルは、第1、第2の2つのターミナルから成り、コンテナクレーン7基を備える西日本有数のコンテナターミナルである。

昭和54年（1979年）の第1ターミナル開設時より35年間稼働してきた、太刀浦1号クレーンの老朽化が進んだため、平成24年（2012年）度から更新事業に着手し、平成27年（2015年）2月、新たに太刀浦10号クレーンとして供用を開始した。

太刀浦1号クレーンの全揚程（コンテナを吊り上げる高さ）38mに対し、太刀浦10号クレーンは全揚程を44.5mに上げ、コンテナ船の大型化（オンデッキ13列5段積み）に対応した仕様となっている。



（4）西海岸地区

西海岸地区は、明治22年（1889年）の国の特別輸出港の指定を契機として発展してきた国際港「門司」の発祥の地である。現在は「門司港レトロ事業」として、歴史的建造物の保存活用や関門海峡の景観を楽しみながら散策できる緑地の整備等、魅力あるウォーターフロントの形成を図り、都市型観光拠点として新たなまちづくりを目指している。

・関門海峡ミュージアムのリニューアルオープン

平成15年（2003年）4月、福岡県と北九州市が共同で建設した文化交流拠点施設「関門海峡ミュージアム（愛称：海峡ドラマシップ）」がオープンした。この施設は、雄大な関門海峡を臨む門司港レトロ地区の中核施設として整備されたもの。

施設のコンセプトは、「海峡のドラマ館（人・歴史・ロマン）」で、関門海峡にまつわる歴史、文化、自然を紹介している。

平成30年（2018年）4月から改装のため休館し、令和元年（2019年）9月リニューアルオープンした。



I. 10年間のトピックス

・旧大連航路上屋の整備

「旧大連航路上屋」は、昭和4年（1929年）に門司税関1号上屋として建設され、当時は、大連航路をはじめとする国際旅客ターミナルとして利用されていた門司港の歴史を象徴する近代化遺産である。そのため、これを保存・活用し、周辺一帯を市民や観光客が集い、憩う緑地として整備することとなり、平成18年（2006年）度に保存・修復工事に着手、市政50周年にあたる平成25年（2013年）7月19日に再オープンした。



利活用については、1階をこの上屋、北九州港及び大連市を紹介する常設展示スペースや各種会議等に使える多目的室として活用し、2階は休憩室・回廊のほかホールでは週末に各種演奏会が開催されており、年間約20万人（令和元年（2019年）度）の方が利用している。

平成29年（2017年）4月28日には、門司港レトロ地区にある旧門司税関ほかの施設とともに日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶」の構成文化財として認定された。

また、令和元年（2019年）11月15日には、旧大連航路上屋を代表施設とし、門司港レトロ地区・西海岸地区の16施設が「みなとオアシス門司港」に登録された。北九州港開港130周年記念式典も同施設2階ホールで開催された。

（5）大里地区

・大里第2船だまりの整備

大里第2船だまりは、漁船の係留施設として利用されているが、船だまり内の一部の区域の静穏度が確保されていないため、船舶破損や係留アンカーが外れるなどの事故が度々発生している。

このため、平成24年（2012年）度から平成26年（2014年）度にかけて、防波堤の改良工事を行い、船だまり内の安全性向上を図ることができた。

（6）砂津地区

・砂津緑地の整備

砂津緑地は、都心部にあり、交通の利便性が良く、周辺には鉄道駅やバスターミナルだけでなく、フェリーターミナルや渡船場が存在する。

平成29年（2017年）度、小倉駅新幹線口の海側でミクニワールドスタジアム北九州の供用開始に伴い、周辺に海辺の散策や関門海峡の眺望を楽しめる親水空間を確保し、にぎわいを創出する砂津緑地を整備した。



I. 10年間のトピックス

(7) 赤坂地区

・延命寺護岸緑地の整備

延命寺護岸緑地は、小倉北区赤坂海岸にあり、昭和52年（1977年）に市民開放された約1kmの遊歩道である。ここでは、潮風や松並木の自然を感じながら、門司から小倉に至る関門海峡の雄大な風景や、行き交う船を一望することができる。

そのため、市民の方々に安全・安心して利用していただく為、平成25年（2013年）度から平成26年（2014年）度にかけて、防護柵・遊歩道の改修を行った。



(8) 戸畑地区

・新若戸道路の整備

新若戸道路は、本市の重要な生産・物流拠点である響灘地区の交通需要の増加への対応と効率的な物流ネットワークの実現に向けた広域幹線道路網へのアクセス強化、若戸大橋及び周辺道路の慢性的な交通渋滞緩和を図ることを目的に、国土交通省と北九州市及び北九州市道路公社が連携して整備を実施、平成24年（2012年）9月に開通した。

なお、海底トンネル部分は、九州で初めて沈埋トンネル工法が採用された。



・川代埠頭の再整備

川代埠頭は、新若戸道路が埠頭内を貫いて整備されることから、埠頭としての港湾機能を確保するとともに、老朽化した埠頭を効率的に再編するため、平成8年（1996年）に岸壁改良等を港湾計画に位置付けた。平成12年（2000年）度より岸壁改良や前面泊地の浚渫を行い、船舶の大型化に対応することで、企業の物流活動や生産の基盤強化を図っている。

(9) 若松地区

・奥洞海航路の浚渫

奥洞海航路は、近年、船舶の大型化が進み、既設の航路幅が狭いため、大型船舶においては行き会い調整を行う等の航行規制が生じている。このため、平成24年（2012年）度から航路の拡幅浚渫を行っており、海上物流の効率化に努めている。

また、江川や新々堀川など多くの河川からの土砂流入などにより、水深が浅くなっている所があり、規定水深を満たしていないため、航行規制を受けており、企業活動に支障を及ぼしている。航行の安全性の確保と航行規制の緩和を図るため、航路の拡幅浚渫に合わせて、海底に堆積した土砂の浚渫を行っている。

I. 10年間のトピックス

・若松船だまりの整備

若松船だまりは、漁船の係留施設として利用されているが、利用隻数が増え、漁船も大型化しており、利便性向上及び漁船が安全に利用するため、平成24年（2012年）度から船だまりの拡張を行っている。

また、若松航路に隣接し、航路を往来する船舶の大型化による航跡波の影響により、所定の静穏度が確保できていないため、この拡張に合わせて、物揚場や防波堤の新設、船だまり内の浚渫も行っている。

(10) 響灘東地区

・響灘東D地区の竣功

響灘東D地区は、昭和53年（1978年）7月に埋立免許を取得し、同年8月に工事着手した。埋立地南側に一般廃棄物（約102万 m^3 ）、産業廃棄物（約324万 m^3 ）を、北側に建設残土（約835万 m^3 ）、浚渫土砂（約1,428万 m^3 ）を受け入れる計画で整備を実施し、令和元年（2019年）6月に全体面積約216haの竣功認可を受けた。

・新響灘大橋の整備

企業立地による交通量の増加への対応、朝夕の慢性的な交通渋滞の解消、災害時のリダンダンシーの確保のため、響灘東地区において、新たな臨港道路の整備を平成21年（2009年）度より国直轄事業で実施し、平成25年（2013年）5月に供用開始された。



・響灘東地区処分場の整備

市民生活や市内企業の経済活動を支えていくためには、長期にわたり安定的な廃棄物の処分場を確保する必要がある。内陸部に長期安定的な処分場を求めることは困難な状況にあることから、海域に廃棄物処分場を確保する必要がある。そのため、既存処分場の残容量等を考慮し、平成24年（2012年）の港湾計画改訂において、廃棄物及び浚渫土砂を処分するための海面処分用地を響灘東沖に位置付けた。

響灘東地区処分場は、平成26年（2014年）に事業着手し、その後、平成28年（2016年）に埋立免許を取得し、同年に工事着手した。埋立地南側に一般廃棄物、産業廃棄物、建設廃材（約253万 m^3 ）を、北側に浚渫土砂（約204万 m^3 ）を受け入れる計画で整備を行っている。

・響灘南緑地の整備

響灘南緑地は、環境未来都市にふさわしい本市の総合的環境学習拠点として整備されている響灘東地区にあり、平成24年（2012年）度に緑地の一部として響灘ビオトープがオープンした。

響灘ビオトープに生息する生物の保全や周辺工場地域との緩衝帯（植樹帯）となることを目的として、平成26年（2014年）度から令和元年（2019年）度にかけて、市民が憩える親水施設として、遊歩道やベンチ等の整備を実施した。

また、響灘水路に面した南側ブロックでは釣りを楽しむこともできる。

I. 10年間のトピックス

(11) 響灘西地区（ひびきコンテナターミナル）

・水深10m岸壁の多目的活用

平成20年（2008年）当時、響灘地区では、進出した企業が相次いで稼働を開始し、多くの企業が輸出入に際して、コンテナ貨物、一般貨物の両方を取り扱うことを予定していた。

しかしながら、響灘地区にある既存の一般在来岸壁は、すでに多くの利用船舶により混雑をきたしていたため、新規一般貨物のニーズに対応可能な岸壁の確保が急務となっていた。

このような状況に的確に対応するため、ひびきコンテナターミナル水深10m岸壁をコンテナ貨物に支障のない範囲において、平成21年（2009年）12月から一般在来岸壁として暫定的に活用することとなった。

その一例として、本市では従前より日本船や外国の小型クルーズ船の受入れをしていた門司・西海岸地区に加え、平成28年（2016年）6月から、若松・ひびきCTにおいてクルーズ船の受入れを開始した。

これにより、ひびきコンテナターミナルでは約16万トンクラスまでの大型客船を受入れることができるようになった。

また、クルーズ船乗客用の大型観光バスの受入れに係る安全対策のため、平成30年（2018年）に岸壁に続く側道の整備を行った。



・響灘西防波堤の整備

響灘西地区の北側に位置する沖合船だまりは、西、北西方向からの風浪が卓越しており、港内静穏度が悪く、小型の漁船が利用できない状況である。そのため、船だまりの静穏度を確保し、安全に利用できるよう、平成24年（2012年）度から防波堤の整備を行っている。

I. 10年間のトピックス

2 港の管理・運営・振興

(1) 市民PR

市民の「海」や「港」に対する理解を深めるため、各種イベントを開催し、港の賑わいを演出している。特に、「船舶の一般公開」「海の日記念行事」「くきのうみ花火の祭典・関門海峡花火大会」は、市民から大変好評を得ている。

・船舶の一般公開

例年、主に門司みなと祭期間中に併せ、門司港西海岸地区に独立行政法人海技教育機構の練習船などを招聘し、船舶の一般公開を行っている。



・海の日記念行事

北九州港に関係する行政機関及び港湾関連団体では、海の日(7月第3月曜日)に因んだ様々なイベントを開催し、海洋・海事思想の普及・啓発に努めている。

本市でも、北九州市民を対象とした大型フェリーによる「関門海峡クルージング」や、気軽に市民にマリンレジャーを楽しんでもらう「関門港ボート天国」等の事業に一般社団法人北九州港振興協会と共に参画している。

・くきのうみ花火の祭典(7月)、関門海峡花火大会(8月)

毎年、夏の空を彩るイベントとして、「くきのうみ花火の祭典(7月)」、「関門海峡花火大会(8月)」を開催している。これは、市民に対し、海と港への関心を高め、地域の活性化を図ることを目的とするもの。



昭和61年(1986年)に第1回「海の祭典」が本市で開催されたことを記念して、前夜祭として門司で、フィナーレとして洞海湾で、それぞれ花火を実施したのが始まり。

・北九州港マスコットキャラクター「スナQ(スナキュー)」

開港120周年(平成21年、2009年)記念事業のシンボリックなキャラクターとして、北九州港で見ることのできる世界最小のクジラ・スナメリをモデルに選び、記念事業の市民周知やPRに活用している。マスコットキャラクターの愛称は公募を行い、全427点の応募の中から、愛称選定委員会において決定された。

平成29年(2017年)度に商標登録を行った。



I. 10年間のトピックス



スナQ®

【スナQのモデル】

スナメリ：世界最小のクジラで、北九州港でも関門海峡周辺の水深50m以内の浅瀬で見ることができる。

絶滅危惧種として、日本哺乳類学会のレッドデータブックに登録されている希少動物。

【スナQのプロフィール】

誕生日：11月15日（北九州港の開港記念日と同じ）

年齢：12歳 性別：男の子

フェイスブック：<https://www.facebook.com/minatonosunaq/>

・北九州港ホームページ

北九州港は、港湾物流や漁業、民間企業の生産の場としての港湾事業だけでなく、多くの市民が海辺に親しむことのできる緑地や海辺の整備状況、利用可能な港湾施設、防災対策、「みなと」を核とした賑わいイベント等の情報を北九州港ホームページを通して、市内外に発信している。

北九州港ホームページ：<http://www.kitaqport.or.jp/>

・「若松港築港関連施設群」土木学会選奨土木遺産に認定

若松港は、かつて筑豊炭田からの石炭積出基地として整備された。大正期には日本最大の石炭積出港として繁栄し、日本の近代化に大きく貢献した港湾施設である。このうち、明治から昭和初期に完成し、当時の姿を残す若松南海岸物揚場や弁財天上陸場など6つの施設が「若松港築港関連施設群」として、令和元年（2019年）度の土木学会選奨土木遺産に認定された。



（2）北九州港開港130周年記念事業

北九州港は、明治22年（1889年）に門司港が国から特別輸出港に指定されてから、令和元年（2019年）で、130周年を迎えた。

そこで、「もっと！ずっと！港でつながる北九州」を基調テーマに、一過性のイベントに終らせるのではなく、市民や企業など、多くの主体の参画と協力のもと、将来に渡って北九州港の財産となるような事業を意識し、より多くの市民に、港の役割や海辺のすばらしさ、大切さ、楽しさを感じてもらおうような記念事業を実施した。



I. 10年間のトピックス

・記念式典、記念講演会

令和元年（2019年）11月16日（土）に、北九州港開港130周年記念式典を開催した。会場となった旧大連航路上屋では、記念式典に先立ち、国土交通省主催の「みなとオアシス門司港」登録証交付式が開催され、北橋健治北九州市長が、高田昌行国土交通省港湾局長からみなとオアシス登録証の交付を受けた。続いて開催された記念式典では、地元港湾関係者や関係官庁、海外姉妹港（米国・タコマ港、タイ・レムチャバン港）などを含む関係者約180人が参列。主催者を代表して、北九州港開港130周年記念事業実行委員会 野畑昭彦副会長と北橋市長が挨拶したほか、高田局長や小川洋福岡県知事が祝辞を述べた。また、130年の歴史を振り返る映像の放映や、木本仁北九州市港湾空港局長が北九州港の紹介プレゼンを行い、続いて、一般財団法人みなと総合研究財団の山縣宣彦理事長による特別講演会があり、「みなとまち北九州、30年後の夢」と題した講演を行なった。



・イベント

英国の豪華クルーズ船「クイーン・メリー2」北九州港初寄港【3月1日】

設立170年以上の歴史を持つ老舗の英国船社「キョナード・ライン」が運航する豪華客船「クイーン・メリー2」が北九州港に初めて寄港した。開港130周年記念事業のイベントとして、当日は盛大に歓迎するイベントを開催し、1万人を超える市民でお出迎えした。



レムチャバン港姉妹港会議【3月19日】

レムチャバン港は、タイ港湾庁（PAT）が管轄する大水深港であり、タイ王国最新鋭の国際貿易港として1991年に開港した。本市では、1991年に姉妹港を締結し、定期的な会議の開催や研修生の相互派遣などの事業を行っている。姉妹港締結を記念して1991年に建立した記念碑を、北九州港開港130周年記念・第12回姉妹港会議開催に合わせてリニューアルし、除幕式を行った。



I. 10年間のトピックス

・開港130周年記念事業

帆船「みらいへ」寄港【5月1日】

帆船「みらいへ」が門司港に寄港。船内一般公開やセイルドリル、マストのぼりなど、帆船の魅力を思う存分満喫した。当日は、200人を超える子どもたちが集まった。



神戸まつりで北九州港開港130周年をPR

【5月19日】

神戸市で毎年5月に開催される「第49回神戸まつり」で、神戸港フェリー就航都市ブースに出展し、北九州港開港130周年をPRした。当日は約104万人の来場があり、用意した2,000部以上の北九州市観光案内パンフレットなども全て無くなる大盛況ぶりであった。

門司みなと祭で北九州港開港130周年をPR【5月25日～26日】

1934年から始まった日本三大みなと祭りのひとつで、門司港地区・大里地区をメイン会場として開催した。ハーレーダビッドソンを先頭に、ミスポート門司の人力車、音楽隊、シャギリ隊、仮装隊など、約2,000人が参加する祝賀パレードに、港湾空港局職員が参加し、PRグッズ・PRトラック側面装飾などのほか、横断幕、のぼり、130周年記念Tシャツを着用するなど、開港130周年のPRを行った。



練習船「銀河丸」シップスクール・一般公開【5月25日～26日】

第76回門司みなと祭・北九州港開港130周年に合わせて、独立行政法人海技教育機構の練習船「銀河丸」が寄港した。「銀河丸」は、将来の港や海の仕事を担う船員を育てるための教育の場として活躍している練習船である。「銀河丸」の寄港に合わせて、子どもたちを対象とした「シップスクール」を開催し、船内見学やロープワーク体験など、体験型の海洋教室を行った。一般公開では、1,752人が船内見学を行った。



子ども港スタンプラリー【7月14日～11月17日】

子どもたちの世代に、もっと北九州港の歴史や現在の港の役割について知り、体験してもらう機会を増やし、港に対する愛着やシビックプライドを醸成することを目的に、北九州港のイベントに参加した子どもを対象にスタンプラリーを実施した。抽選で、人気ゲーム機・図書カード・スナQグッズなど素敵な商品をプレゼントした。



I. 10年間のトピックス

港湾関連業界就職セミナー【7月17日】

北九州商工会議所主催の会社合同説明会の併催イベントとして、主に就職活動中の学生を対象に、港湾関連業界に興味・関心を持ってもらい、どのような仕事があるか理解してもらうためのセミナーを開催した。セミナーの内容としては、①「まだ間に合う就活」と題し、採用活動中の港湾関連企業の紹介②具体的にどのような企業群で構成されているのか紹介し、業界に対する理解を深める③北九州港開港 130 周年記念事業の紹介を中心に行った。

関門海峡クルージング【7月27日】

市民太陽光発電所市民還元事業の一環として、株式会社名門大洋フェリーの「フェリーおおさかⅡ」に乗って、新門司港発着で関門海峡を巡るクルージングを実施した。船内では、環境学習として、水素自動車の展示やパネル展示を行ったり、自然エネルギーの仕組みなどをクルージングしながら学習した。



練習船「大島丸」・子ども体験航海【8月8日】

子どもたちに海や港に親しんでもらうことを目的として、大島商船高等専門学校の練習船「大島丸」に乗船し、関門海峡（関門橋～太刀浦沖）の航海を体験するとともに、船内見学等を実施した。練習船「大島丸」の体験航海は、今回が初めての取り組みであった。



第12回かんもん・門司港レトロ子ども絵画コンクール【8月18日】

毎年2,000名近い応募のある、関門海峡ミュージアム主催の、「かんもん海峡・門司港レトロ」をテーマとした小学生、幼稚園児、保育園児対象の絵画コンクールで、「開港130周年記念特別賞」として、小学生・幼稚園から5名を表彰した。

北九州ゆめみらいワーク 2019 に出展【8月23日、24日】

北九州市は、小・中・高校生が早い段階から仕事や進学について考え、地元の魅力を知るイベントとして「北九州ゆめみらいワーク」を開催している。海や港に関わる仕事についての理解を促進し、「次世代人材の育成」を進めるため、海や港に関わる企業・団体と合同で「北九州ゆめみらいワーク 2019」に出展した。二日間で延べ7,500人を超える来場があり（前年度7,100人）、海や港に関わる仕事のPRを行うことができた。



【参加企業・団体】

海上保安庁、北九州港開港130周年記念事業実行委員会、国土交通省九州運輸局、財務省門司税関、株式会社白海、株式会社タカミヤ、鶴丸海運株式会社、株式会社名門大洋フェリー、株式会社若港、若築建設株式会社（以上、五十音順）

I. 10年間のトピックス

夜景観賞クルージング【11月9日】

北九州港開港 130 周年事業として、広く市民に港や海に親しんでもらうと共に港のにぎわいを創出するため、船舶等を活用して北九州港及びその周辺におけるクルーズ船・港湾施設見学イベントを開催した。当日は 69 名の市民が参加し、ひびきコンテナターミナルに寄港したクルーズ船「MSC スプレディダ」の外観洋上見学も行った。

錨モニュメント・アートプロジェクト【11月15日】

港湾空港局・門司庁舎前に設置してある「錨（いかり）」を 130 周年記念モニュメントとして、リニューアルをした。錨本体は、門司区出身で門司港美術工芸研究所出身でもあるアーティストの「とよだまりさ」氏のライブペイントによる塗り替えを行い、その壁面の装飾に使用する陶器絵画を、海・港をテーマに地元の子どもたちを中心に創作。開港記念日である 11 月 15 日には、除幕式も行った。



北九州港開港 130 周年記念メインイベント【11月16日、17日】

開港 130 周年を祝う記念事業のメインイベントとして、開港記念日の 11 月 15 日（金）に続く 16 日（土）、17 日（日）に、門司港で様々な記念イベントを行った。当日は 45,000 人の来場があり、各種船舶の公開や、市民参加型のアートイベント、音楽ライブイベント、竹灯籠などによる光と音の演出などで開港記念を盛大に祝った。港が果たす役割や、海辺のすばらしさ、大切さ、楽しさを感じるきっかけになった。



<大壁画 みなとからのメッセージ>

門司港美術工芸研究所の協力により、海をテーマにした市民参加によるボードレスアート壁画の製作、展示を実施した。

<海辺のアートギャラリー>

門司港美術工芸研究所と北九州市立大学、西日本工業大学、京都造形芸術大学、大分県立芸術文化短期大学の学生によるアート作品を設置した。フォトスポットとなるようなライトアップを行った。



<竹灯籠・キャンドルナイト>

竹灯籠やキャンドルによる演出で幻想的な空間を創出した。多くの市民とともにキャンドルに点灯し、開港 130 周年に思いを巡らせた。



I. 10年間のトピックス

<ハンドメイドデイズ・ライクブルーマート>

ハンドメイド作家による出店や、マルシェ、音楽ライブ、ライブペイントなど、音楽、アートをテーマにしたカルチャーイベントを開催した。

<130周年だよ！船舶集合！>

海技教育機構 練習船「青雲丸」、海上自衛隊 補給艦「ましゅう」、九州地方整備局関門航路事務所 浚渫船「海翔丸」、一般社団法人グローバル人材育成寄港 帆船「みらいへ」、門司税関 巡視艇「げんかい」、海上保安庁 巡視船「くにさき」、が一堂に集まり、船内見学や体験教室などの一般公開を行った。



<PORTO FESTA (ポルトフェスタ)>

港町らしく九州やアジアの食や文化をテーマにしたマルシェ形式のイベントを開催。



<門司港レトロ中央広場イベント>

地元アーティストによる音楽ライブや門司税関による麻薬探知犬デモンストレーション、門司港名物バナナの叩き売り、毎年恒例の門司港レトロイルミネーション点灯式、門司港キャンドルナイトなど、様々な楽しい催しが実施され多くの観客で盛り上がった。



冬を五感で楽しむ・みなと・鉄道・トロッコ列車を運行【12月24日】

130年にわたる北九州港や鉄道の歴史を振り返り、これから展開される新しい未来にむけた港や鉄道について理解と関心を深めることを目的に、潮風号の乗車、かんもん号「海峡カフェ」でスイーツを食べながらの講話、九州鉄道記念館見学などを行った。当日は43名の市民が参加した。



冠付イベント

その他にも市内では北九州港開港130周年を記念した冠付けイベントが35件開催された。

I. 10年間のトピックス

(3) みなとオアシス門司港の登録

・みなとオアシス門司港について

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を国土交通省港湾局長が登録するもの。



令和元年（2019年）11月15日に、「みなとオアシス門司港」が全国134箇所目のみなとオアシスに登録された。発展を続ける「北九州港」において、地域住民の交流促進や地域の魅力の向上につながる取り組みを行う。

<登録背景>

北九州港開港130周年を記念して様々な記念事業が実施されたが、これらを一過性のイベントで終わらせることなく、今後も「みなと」を核としたまちづくりを促進するために、「みなとオアシス門司港」の登録を目指した。



今回の登録は、

- 代表施設「旧大連航路上屋」は、各種多目的スペースを活用してのイベントや文化・芸術の発表の場であり、また映画・芸能資料館「松永文庫」もあるなど、情報発信・交流拠点となっている
- 門司港レトロ中心地区では、関門海峡に面した美しい景色を一望しながら、国指定重要文化財にも指定されている大正ロマン漂う歴史的建造物群を散策することができ、一年を通して様々なイベントが開催される
- 日本三大みなと祭りのひとつである門司みなと祭が毎年5月下旬に開催され、祝賀パレードを中心に門司の文化・伝統が披露される盛りだくさんのお祭りであること

などが評価された。

みなとオアシスに登録することで、

- 国土交通省主導による全国への情報発信
 - 市内インバウンド客の集客の大きなコンテンツとなること
 - 近隣の「みなとオアシス下関」も含めた関門地区の周遊人口の増加
 - 全国約130ある「みなとオアシス同士」の連携による、交流人口の増加
- など、にぎわいを介した経済波及効果が期待される。

<構成施設>

- ①旧大連航路上屋<代表施設>/
- ②関門海峡ミュージアム/
- ③門司港国際ターミナル
- ④九州鉄道記念館/
- ⑤JR門司港駅/
- ⑥マリゲートもじ/
- ⑦旧門司三井倶楽部
- ⑧旧大阪商船/
- ⑨旧門司税関/
- ⑩海峡プラザ/
- ⑪ブルーウィングもじ
- ⑫門司港レトロ観光物産館/
- ⑬門司港レトロ展望室/
- ⑭大連友好記念館
- ⑮出光美術館/
- ⑯門司電気通信レトロ館

I. 10年間のトピックス

・Sea級グルメ

みなとオアシスに登録された地域が使用できる商標で、地元で親しまれ、「ぜひ多くの人に味わって欲しい」と自信をもってお勧めできる、水産物を活用した料理。事務局は一般社団法人



「Sea級グルメ®」は一般社団法人ウォーターフロント協会の登録商標です

ウオーターフロント協会、年1回グルメイベント「Sea級グルメ全国大会」が登録地域にて持ち回りで開催されている。会場には全国のみなとオアシスから、自慢のグルメが集合し、来場者の投票によってその年のSea級グルメNo.1が決定する。将来的には門司港にも全国大会を誘致し、一層のにぎわい創出につなげたい。

(4) 市民参加によるみなとづくり

・北九州市海辺利用促進会議

平成23年(2011年)6月に策定された「新・海辺のマスタープラン」を推進するため、市民団体の代表者や学識経験者などの委員で構成する「海辺利用促進会議」を設立した。

本会議における、計画の進捗状況や取り組み内容等に対する評価や意見等を踏まえて、施策の改善・見直しを行い、市民にとってより身近で魅力ある海辺づくりの実現を目指している。

・市民参加による洞海湾の環境修復検討事業

平成17年(2005年)度から平成29年(2017年)度まで、地元小学校を対象に、「ムラサキイガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」を開催し、市民参加による環境修復活動に取り組んだ。



また、新たな環境手法を開発するため、平成18年(2006年)度から平成24年(2012年)度まで、覆砂(若松区南二島)及び藻場(戸畑区牧山海岸)の実験場を設置してモニタリング調査を実施し、水質・生物相等の改善効果の研究を行った。平成25年(2013年)度には、研究の成果を取りまとめた報告書「洞海湾の更なる水質改善を目指して」を作成した。

・みなとや海辺の活動支援

若松区響灘地区で風力発電事業を行っている株式会社エヌエスウインドパワーひびきは、平成16年(2004年)度から、北九州市民等がみなとや海辺で行う活動に対して、その活動費の一部を助成しており、これまでに220件の活動に対して支援を行ってきた。活動の成果は、パネル展や活動報告書、北九州港ホームページ等で市民への周知が行われている。

I. 10年間のトピックス

・北九州港みなとや海辺づくり大賞

北九州市制50周年や「みなとや海辺の活動支援」の制度創設10周年の節目として、平成25年（2013年）度に「北九州港みなとや海辺づくり大賞」を実施した。この表彰は、市民や企業が創意工夫を活かした独自の取り組みや北九州港の魅力アップに貢献した活動を顕彰し、みなとの活性化や魅力あるみなとや海辺づくりを推進するもので、23件の応募者の中から、大賞2件、特別賞3件が選ばれ、旧大連航路上屋で表彰式を行った。

・大賞（団体部門）

北九州市立藍島小学校【「受け継ごう！ふるさと藍島」～島の特性を生かした環境学習の取組】

・大賞（個人部門）

永木三茂 【門司港の賑わいづくりの実践】

・特別賞

北九州美しい海を守る会【定期的海岸清掃活動の実施】

北九州港湾建設協会 【海岸クリーンアップ運動】

NPO法人北九州市を明るく元気にする会【親水公園を素敵で快適な環境にする整備事業】

（5）市民太陽光発電所・市民還元事業

市制50周年記念実行委員会の有志から、「厳しい公害を克服し、本市を『世界の環境未来都市』に発展させた市民の環境力と優れた技術を持つ地元産業界といった、わが街の誇りや強みを活かした市制50周年記念事業のひとつとして、『環境未来都市のシンボル』となるような事業を実施して欲しい」との要望書が提出され、市債や、市民・企業・団体等からの寄付金を募り、市民太陽光発電所が建設された。

建設資金だけでなく、市債の元利償還金や施設の維持管理費等、全ての歳出経費を売電収入で賄うという、まさに市民と団体、地元産業界が支える市民太陽光発電所となった。

・起工式、地鎮祭

平成25年（2013年）3月4日、市民太陽光発電所「起工式・地鎮祭」が執り行われた。

（出席者）

北九州市、北九州市議会、北九州商工会議所、市民代表 寺坂カタエ（北九州ESD協議会）、宮原深海（北九州市自治会総連合会）、松村佐和子（北九州市女性団体連絡会議）ほか



・竣工式

平成25年（2013年）8月23日、市民太陽光発電所「竣工式」が執り行われた。

寄付を行った方々の銘板のほか、北九州市出身のイラストレーター 黒田征太郎氏と地元小学生達が作成した絵画を貼り付けたコンクリート壁がお披露目された。



I. 10年間のトピックス

(出席者)

北九州市、北九州市議会、北九州商工会議所、北九州市制50周年記念事業実行委員会、寄付者(市民、団体、企業ほか)、赤崎小学校・小石小学校関係者、株式会社安川電機、株式会社クロサキ、小倉セメント株式会社、三菱化学株式会社 ほか約300名

・市民還元事業

市民太陽光発電所の売電収入の一部を活用して、市民生活の向上に繋がる事業を実施するもの。

「市民太陽光発電所・市民還元事業検討懇話会」の構成員から意見をいただき、毎年の事業を決定している。

(実績)平成25年(2013年)度～令和元年(2019年)度
45事業 約1億5,400万円



市民還元事業「うみたび体験事業」の様子

(6) 航路の開設等

・クルーズ客船の誘致

本市では従前よりクルーズ客船の受入れをしていた門司・西海岸地区に加え、平成28年(2016年)からは、若松・ひびきCTにおいても大型クルーズ客船の受入れを実施している。

クルーズ客船の寄港によって、港湾の振興だけでなく寄港地及び周辺観光地などへの経済波及効果が期待されるため、本市では、海外での展示会への出展、国内他港と連携した海外セミナーの実施などの誘致活動を展開するなどして、さまざまなクルーズ客船の誘致を図っている。



平成31年(2019年)には、イギリスの豪華クルーズ客船「クイーン・メリー2」がひびきコンテナターミナルに寄港した。

・外航コンテナ航路の開設状況(月間39航路184便：R2.1現在)

この10年間、世界金融危機による不況の影響や世界的な船腹過剰によりコンテナ船社間の競争が激化し、大手船社によるM&Aが繰り返され、船社の集約・再編が進んだ。

邦船社においても、国内海運大手3社により平成29年(2017年)にコンテナ船事業の統合会社「ONE」が設立され、航路の再編が行われた。

また、韓国船社は平成27年(2015年)に韓国海運連合を結成し、韓国・中国・日本航路の共同運航などの合理化を進めており、北九州港と韓国を結ぶ航路数・便数は減少傾向にある。

一方で、東アジアの経済成長に伴い、タイ・マレーシアなど、より遠方の航路に改編する傾向もみられる。

I. 10年間のトピックス

・ポートセールス

北九州港独自の航路・集荷の誘致並びに物流拠点としての地位向上を目的として、平成15年（2003年）9月、北九州市に加え地元港湾関係企業131社の参加を得て、「北九州港航路集貨対策委員会」が発足した。

委員会では、海外のターゲット港にポートセールスミッション団を派遣し、大都市圏において、荷主や港湾関係者を対象とした「北九州港セミナー」を開催するなど、北九州港の利用促進を図っている。

・姉妹港・友好港との交流

姉妹（友好）港である米国・タコマ港、中国・大連港及びタイ王国・レムチャバン港と、港湾間の利用促進を目的として、3年に一度姉妹（友好）港会議を開催している。

また、大連港及びレムチャバン港とは、研修生の相互派遣を毎年実施、昭和63年（1988年）の派遣開始以降、これまでに累計101名の研修生がプログラムに参加している。

・中国・韓国主要港湾とのロジスティクス・パートナー港提携

平成16年（2004年）11月、東アジアに位置する日中韓の主要10都市により「東アジア経済交流推進機構」が創設された。同機構には、「ロジスティクス」「ものづくり」「環境」「観光」の4部会が設けられ、さまざまな課題について検討が行われる。

このうち、港湾施策・物流活性化について取り組む「ロジスティクス部会」での活動を契機として、平成16年（2004年）に韓国の仁川広域市と、平成17年（2005年）には中国の天津市・青島市・煙台市の三都市と、「ロジスティクス・パートナー港協定」を締結し、港湾・空港における物流・旅客輸送両面の連携体制を構築した。

しかし、各都市間相互に共通する物流に関する課題について知識と経験を共有し特に経済交流を活発化していこうとすることを目的としているが、会員が競合関係にあることから、平成22年（2010年）を最後に開催されておらず、平成26年（2014年）に規約を改正し、実質上、休止している。

・モーダルシフトの推進

平成17年（2005年）2月の京都議定書の発効や平成18年（2006年）4月の改正省エネ法の施行を受け、運輸・物流部門においては、長距離トラック輸送から、CO2削減効果の高い鉄道輸送や内航コンテナ・フェリーなどの海上輸送に転換する「モーダルシフト」が広がった。

さらに、昨今の少子高齢化等による長距離トラックドライバーの不足や、労務環境の法令厳格化等によりその流れが急速に加速した。

このような輸送需要に対応するため、新門司を拠点とする長距離フェリー3社は、平成27年（2015年）から28年（2016年）にかけて、北九州港に就航する長距離フェリー12隻のうち8隻を新造船に更新・大型化し、輸送力が約25%増強された。残り4隻についても令和2年（2020年）から令和4年（2022年）にかけて新造船に更新する予定で、更に輸送力が増強される。



新造船「せつ」進水式(三菱重工業株式会社提供)

I. 10年間のトピックス

・自動車輸送船（PCC）の新規航路開設

北九州港の田野浦ROROターミナルは、中古自動車の積み出し拠点として活用されており、平成27年（2015年）1月には、同センター内に株式会社日本輸出自動車検査センター（JEVIC）の検査施設（ニュージーランド向け輸出中古自動車を主とした検疫検査施設）が設置され、北九州港からニュージーランドへ中古自動車を直接輸出することが可能となった。



これにより、平成27年（2015年）2月から新たにニュージーランド航路が開設され、トヨフジ海運株式会社及びアマカップ社が寄港を開始した。

・東九州自動車道の開通による物流モードの充実

平成28年（2016年）4月、東九州自動車道が全通し、北九州市から宮崎市まで高速道路が繋がったことで、北九州市を起点に大分、宮崎、鹿児島の各県を結ぶ新たな陸上輸送モードが完成した。

これにより、九州の高速自動車道ネットワークがほぼ完成し、地域全体の人や貨物の移動が活性化し、産業や観光面で大きな飛躍が期待される。

陸・海・空の物流インフラが充実している本市においては、東九州・西九州・本州の3方向に延びる高速道路の結節点となることで拠点性がさらに高まり、より一層の発展が期待できる。

・北九州～沖縄を結ぶRORO航路が開設

平成31年（2019年）3月25日、マルエーフerry株式会社及び南西海運株式会社により北九州（日明）～那覇新港～先島間を結ぶ定期RORO航路が開設された。

北九州港と沖縄が定期航路で結ばれるのは平成20年（2008年）以来、約11年ぶりである。



（7）企業立地の促進

・臨海部埋立地への企業進出（マリナクロス新門司・響灘臨海工業団地）

マリナクロス新門司では、環境に優しいモーダルシフトの進展が追い風となり、グリーンロジスティクス株式会社や株式会社ドリス等の物流関連企業やeコマース関連企業の進出が進んだ。

また、響灘臨海工業団地の東部地区には、配合飼料の製造・販売等を全国に手掛けるフィード・ワン株式会社や超大型タイヤの製造を行う株式会社ブリヂストン北九州工場の拡張等の大型投資案件が相次ぎ、ひびきコンテナターミナル背後地に広がる西部地区にも、日本通運株式会社や株式会社ブリヂストンが立地した。

その結果、この10年間で新門司及び響灘、両地区全体で64社、約88haの立地となった。

I. 10年間のトピックス

・株式会社ブリヂストン北九州工場(拡張)

株式会社ブリヂストンは響灘臨海工業団地において、平成21年(2009年)6月より本工場を稼働している。令和元年(2019年)現在までに4回にわたる段階的な生産能力の増強が行われており、世界最大級のタイヤ生産工場である。本工場では建設・鉱山車両用大型・超大型ラジアルタイヤの生産を行っており、海外での旺盛な需要に応えるべくライン増設や設備増強を行い、令和元年(2019年)時点の生産能力は165トン/日にも及ぶ。



・フィード・ワン株式会社

フィード・ワン株式会社は神戸以東に6つの飼料工場を有していたが、養殖産業の需要をうけ九州・四国地方の養殖所へ飼料を出荷する製造拠点設置のために平成29年(2017年)響灘地区に進出、国内最大規模の水産飼料工場として稼働している。

また、平成30年(2018年)には、隣接地への畜産飼料工場の新設工事に着手し、令和2年(2020年)9月より稼働している。

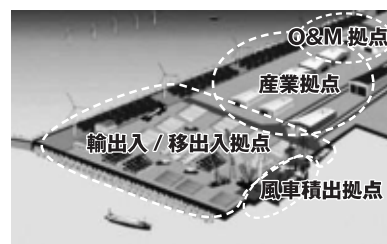
これらの工場の進出に伴い、関連する物流企業の響灘地区への進出も促進されており、本市経済の活性化に寄与している。

(8) 風力発電関連産業の総合拠点化の推進

・「グリーンエネルギーポートひびき」事業

平成23年(2011年)より響灘地区において、風力発電をはじめとしたエネルギー関連産業の集積を目指す「グリーンエネルギーポートひびき」事業を実施している。

これまでに、風車の実証事業や大規模な洋上風力発電事業を誘致するなど、着実に事業が進められている。



・響灘地区への風力発電関連産業の集積促進事業

平成25年(2013年)5~7月、響灘地区の臨海部で風力発電等の実証事業を行う企業を公募する「風力発電関連産業の集積促進事業」を実施した。この公募で選定された響灘ウインドエナジーリサーチパーク合同会社が、平成30年(2018年)1月、風力発電と太陽光発電のハイブリッド発電施設である「響灘ウインドエナジーリサーチパーク」の運転を開始した。また、令和2年(2020年)5月には自然電力株式会社による「北九州響灘風力発電所・太陽光発電所」が竣工した。平成28年(2016年)には株式会社北拓がメンテナンスに関するメンテナンス用倉庫兼トレーニングセンターを開設するなど「実証研究エリア」での産業集積が進められている。

・「響灘エネルギー産業拠点化推進期成会」設立

平成27年(2015年)7月30日、エネルギー産業拠点化の早期実現に向けて、北九州市内外の様々な団体や企業からなる応援団「響灘エネルギー産業拠点化推進期成会」が設立された。環境整備や規制緩和を促進するために、国などに対し予算や制度などの要望活動やセミナー開催などの啓発活動を行っている。

I. 10年間のトピックス

・響灘洋上風力発電施設の設置運営に係る事業者の公募事業

平成 28 年（2016 年）8 月、大規模な洋上ウインドファームの誘致に向けた「響灘洋上風力発電施設の設置・運営事業者公募」を実施した。平成 29 年（2017 年）2 月に優先交渉者として「ひびきウインドエナジー」を選定し、平成 30 年（2018 年）1 月、本市は同社と「響灘洋上風力発電施設の設置・運営事業」に係る基本協定を締結した。令和元年（2019 年）10 月、同社は設置する風車機種候補を MHI Vestas 社製 9.5MW モデルに決定した。



・五洋建設株式会社所有 SEP 船が北九州港を母港化

平成 31 年（2019 年）1 月、五洋建設株式会社が我が国で初めて建造した、洋上風車の建設に必要不可欠な SEP 型多目的起重機船「CP-8001」の母港を北九州港に決定した。



[特殊作業船 SEP]
(出典) 五洋建設株式会社

・「基地港湾」整備と国による指定

洋上風力発電の建設には、重厚長大な風車部品を取り扱い、大型重機が安全に作業するための高耐荷重のヤードや岸壁を備えた港湾施設（基地港湾）が必要である。

この基地港湾については、当初、市単独事業での整備として、令和元年（2019 年）度に着工したが、令和 2 年（2020 年）度より本市と国がそれぞれのエリアを分担して行うこととなった。

また、令和 2 年（2020 年）9 月には国から港湾法に基づく「海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）」として我が国初の指定を受けた。

(9) 港の管理・運営・その他

・港湾情報システムの機能拡充

港湾情報システムでは、北九州港への入港、陸上施設の利用申請、出港、各使用料の算出収納といった手続きの一元管理を行っている。

このシステムの安全性の確保、利便性向上のため、平成 26 年（2014 年）12 月、WindowsXP サポート終了に対応するためのシステム改修を、平成 27 年（2015 年）8 月には、北九州港の 24 時間運用を可能とするためのシステム改修を実施した。

平成 31 年（2019 年）3 月には元号改元に対応するためのシステム改修を実施し、平成 31 年（2019 年）度末を目処に Windows7 サポート終了に対応するためのシステム改修を行っています。

・北九州港事業継続計画（北九州港 BCP）を策定

平成 27 年（2015 年）3 月、大規模な地震等の災害の発生により港湾機能が低下することによる市民生活や地域経済活動への影響を最小限とするため、関係者が円滑に協働して対応できるよう、『北九州港事業継続計画（北九州港 BCP）』を策定した。

I. 10年間のトピックス

平成29年(2017年)1月には、国の「港湾の事業継続計画策定ガイドライン(H27.3)」や県の「津波浸水想定(H28.2)」を踏まえた計画改訂を行い、平成31年(2019年)1月には、市内の油槽所を考慮した内容に計画改訂を行った。

また、平成30年(2018年)1月20日、北九州市総合防災訓練の中で、国の船舶が海上輸送してきた支援物資を耐震強化岸壁である浅野1号岸壁から受け入れ緊急物資集配センター(西日本総合展示場に設置)まで陸送するという想定で、緊急物資輸送訓練を兼ねた海上輸送連携訓練を実施した。

・フェリー会社4社と災害時の輸送協力に関する協定を締結

北九州市内で地震等の大規模災害が発生した場合、本市が応援を依頼した都市等からの物資等の輸送に際して、船舶(フェリー)による海上輸送の協力を受けることにより、緊急物資及び復旧に要する資機材の円滑な輸送を実現するため、東日本大震災の発生から4年目を迎える平成27年(2015年)3月11日、北九州港に就航する中・長距離フェリー会社4社(オーシャントランス株式会社、阪九フェリー株式会社、松山・小倉フェリー株式会社、株式会社名門大洋フェリー)との間で「災害時における船舶での輸送等の協力に関する協定」を締結した。

具体的な協定内容は、①災害救助に必要な食料・物資等の輸送、②災害時の応急対応に必要な要員、資機材等の輸送、③被災者の輸送などである。

・グリーンアワード・プログラムへの参加

オランダに本部を置く非営利活動法人(NPO)グリーンアワード財団が世界的に取り組んでいる「グリーンアワード・プログラム」に、北九州港が参加。同プログラムは、安全で環境にやさしい船舶をグリーンアワード財団が認証し、その認証船に対して参加港湾が優遇措置を与えることで、船舶・船員の質を向上させ、海洋環境の保護を目指すことを目的とした制度で、北九州港は日本初・東アジア初の参加である。

同プログラムへの参加を記念して、平成26年(2014年)11月4日に北九州市役所本庁舎にてセレモニーが開催され、グリーンアワード財団のピーター・ストラウス会長から北橋市長に対し証書等が授与された。

令和2年(2020年)6月現在、参加港湾は16ヶ国40港で、日本では北九州港、名古屋港、横浜港、大阪港の4港が参加している。

・指定管理者制度の導入

【旧大連航路上屋・旧門司税関】

往時の国際貿易港・門司の繁栄を象徴する貴重な建物として保存・活用するとともに、門司港レトロ地区の賑わい拠点とするため、港湾環境整備施設(休憩所・緑地)として再整備を行った旧大連航路上屋と旧門司税関の管理運営について、門司港レトロ地区にある市有施設(産業経済局所管の複数施設)と一体的に管理することで効率的(サービスの向上や集客)な運営を行うことを目的に平成25年(2013年)度(旧大連航路上屋は供用開始から)から指定管理者制度を導入した。

- 指定管理者 株式会社ビービーディーオー・ジェイ・ウエスト・アクティオ株式会社共同企業体
- 指定期間 平成25年(2013年)4月1日～平成30年(2018年)3月31日
平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日

I. 10年間のトピックス

【港湾施設】

港湾施設の管理運営及び性能維持について、より一層の効率化、利用者サービスの向上及び港の利用促進を図ることを目的に、門司地区の港湾施設（国有港湾施設、水域・外郭施設、重要国際埠頭施設等は除く。）において、平成30年（2018年）度から指定管理者制度による管理・運営を実施している。

○指定管理者 北九州埠頭株式会社

○指定期間 平成30年（2018年）4月1日～令和5年（2023年）3月31日

・第6次NACCS更改

NACCSは入出港する船舶・航空機及び輸出入される貨物について、税関その他の関係行政機関に対する手続き及び関連する民間業務をオンラインで処理するシステムである。

平成29年（2017年）10月に稼働した第6次NACCSでは、新たに損害保険会社を利用者に加えるとともに、国土交通省所管の港湾サブシステムをNACCSに統合し港湾・空港における物流情報等を総合的に管理するプラットフォームとして利便性の向上が図られた。

・構造改革特別区域計画「北九州港湾物流効率化特区」認定

本市が申請した特殊な大型輸送用車両による港湾物流効率化事業「北九州港湾物流効率化特区」が構造改革特別区域計画として認定された。（平成31年（2019年）3月20日付）

○認定された特区「北九州港湾物流効率化特区」の概要

北九州港戸畑地区の日本製鉄株式会社九州製鉄所八幡地区（旧八幡製鉄所）は、年間300万トンの鉄鋼製品を所内専用岸壁から国内外に海上輸送している。今後、小倉地区への生産用素材鉄の供給やコンテナ化された多品種の薄板鋼板の出荷が増加する見込みとなったが、所内専用岸壁が狭隘なため、隣接した戸畑地区公共埠頭の活用が急務となった。

しかしながら、所内から公共埠頭までは臨港道路があり、鋼材輸送に使用される特殊大型車両が規制により通行ができず輸送方法に課題があったため、本特例措置により、戸畑地区公共埠頭までの臨港道路における特殊大型輸送用車両の通行が可能となり、公共埠頭からの鉄鋼製品の海上輸送が実現する。

※認定区域 北九州市の区域の一部（北九州港戸畑地区公共埠頭周辺地域）

・日本海側拠点港

中国・韓国・ロシアなどの対岸諸国の経済力を日本の成長に取り込むために、国が公募した「日本海側拠点港」について、平成23年（2011年）7月、北九州港は、下関港と共同で「関門港」として応募した。

その後、平成23年（2011年）11月に選定結果の発表があり、これまでの実績や今後の発展性などが認められ、応募した3つの分野「国際海上コンテナ」「国際フェリー・RORO船」「国際定期旅客」すべてにおいて、選定された。加えて、応募23港のうち5港のみを対象とした「総合的拠点港」にも選定され、「日本海側拠点港」としての機能のみならず、その他の機能の強化も図る事が望まれる港湾として位置づけられた。

I. 10年間のトピックス

3 北九州空港

(1) 北九州空港の概要

・北九州空港の概要

- 設置管理者・・・国土交通大臣
- 所在地・・・北九州市小倉南区空港北町
- 標点位置・・・北緯 33° 50' 44"
東経 131° 02' 06"
- 管理面積・・・約 160ha
- 空港島面積・・・約 373ha
- 滑走路・・・(L) 2,500m × (W) 60m



・北九州空港旅客ターミナルビル

北九州空港の旅客ターミナルビルは、地上3階建の鉄骨造、延床面積は約 16,120 m²で、「小さく産んで大きく育てる」を基本コンセプトに、当初は基本機能に特化し、その後の需要を見ながら増築していく方針で建設された。また、外観は、北九州の山並と、躍動する海、祭りの山車などがモチーフの地域性あふれるデザインとなっている。



・就航路線の充実

平成18年(2006年)3月16日の開港以来、様々な取組を通じて、定期路線の誘致を進めてきた。特に、平成28年度(2016年)からは、平成30年度(2018年)までの3年間を「北九州空港将来ビジョン推進強化期間」と位置付け、福岡県との緊密な連携のもと、誘致・集客活動の強化を図った。

また、その後の令和元年(2019年)度からの3年間を、新たに「ネットワーク充実強化期間」と位置づけ、「福岡空港と北九州空港の役割分担と相互補完」の考えの下、引き続き福岡県と一体となって空港の利用促進に向けた取組を進めた。

これらの取組により、この10年間で、国際線10路線、国内線4路線の定期路線が相次いで就航した。

(2) 北九州空港のあゆみ

・航空貨物拠点化を目指す北九州空港

北九州空港は、九州で唯一24時間利用可能な本格的海上空港という特徴を活かし、「九州・西中国の物流拠点空港」を目指している。平成29年(2017年)に大型貨物機専用エプロンが整備されるなど、貨物拠点機能が充実してきているものの、現行の2,500m滑走路では大型貨物機の就航には制約が大きい。そこで、滑走路の3,000m化や、大型貨物機の就航に必要な貨物ターミナル地区の拡張及びエプロン、スポット等の整備の早期実現を目指している。

一方で、平成19年(2007年)4月には、「北九州空港国際航空貨物推進協議会」を設立し、官民一体となって北九州空港の貨物拠点化に取り組んでいる。

さらに、令和2年(2020年)1月29日に、ロシアの大手貨物航空会社、ボルガ・ドニエプ

I. 10年間のトピックス

ル航空と福岡県・北九州市との間で、北九州空港の利用促進に向けたMOU（覚書）を締結した。同社は、世界最大級の貨物輸送機「アントノフ 124」12機を含む47機の貨物機をグループ全体で保有しており、重量物貨物、大型貨物、人工衛星などの特殊貨物輸送や、災害時の緊急物資の輸送等において、北九州空港利用も積極的に検討することがMOUには示されている。商用以外にもアジアの駐機拠点として北九州空港を検討しており、「BCP拠点としての北九州空港」という観点からも、今後の北九州空港の活用に注目が集まっている。

・北九州空港のアクセスがもっと便利に

北九州空港には市内各所と空港を結ぶエアポートバスが運行しており、路線は小倉線、朽網線、黒崎・折尾・学研都市線の3路線である。小倉線については平成27年（2015年）に1日32往復から38往復に増便され、早朝から深夜まで全ての旅客便に接続するようになったことで利便性が向上した。

また、小倉線の増便に合わせて、市内だけでなく福岡方面と北九州空港を結ぶ福北リムジンバスが運行を開始した。早朝・深夜の時間帯に限定した運行ではあるものの、昼間の長時間滞在が可能となったことで、ビジネス・観光などで利用されている。

・北九州空港 開港10周年

北九州空港は、24時間運用可能な海上空港として、平成18年（2006年）3月16日に誕生し、平成27年（2015年）3月で開港10周年を迎えた。

当時、旧北九州空港時代から就航25周年を迎えた日本航空が東京羽田便を1日5往復、現北九州空港と共に就航10周年を迎えたスターフライヤーが東京羽田便1日11往復、就航1周年を迎えたフジドリームエアラインズが名古屋・小牧便を1日2往復運航していた。



I. 10年間のトピックス



・G7北九州エネルギー大臣会合代表団が北九州空港を利用

平成28年(2016年)5月1日から2日にかけて、「G7北九州エネルギー大臣会合」が開催された。

先進主要7か国(日・米・加・独・仏・英・伊)、EU、国際エネルギー機関(IEA)、国際再生可能エネルギー機関(IRENA)から閣僚等の出席を得、林経済産業大臣が議長を務めた。

「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障」の大きなテーマのもと、(1)エネルギー投資の促進、(2)エネルギー安全保障の強化、(3)持続可能なエネルギーについて議論を深め、共同声明「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障のための北九州イニシアティブ」が採択された。

厳重な要人警護の北九州空港には、各国代表団が続々と降り立った。北九州空港では、初のフライトとなるイタリア代表団を乗せた政府専用機の白い翼が、快晴の青空に一段と映えていた。



・全日本空輸(ANA)による国際貨物定期便が新規就航!

～九州唯一の貨物専用機による定期便で貨物拠点化に弾み～

平成30年(2018年)6月5日に、ANAの国際貨物定期便が新規就航した。九州唯一の貨物専用機による定期便で、火曜～土曜の週5便運航されている。

これにより、北九州空港を深夜0時40分に出発し、「ANA沖縄貨物ハブ」を経由して、翌朝には、ソウル(仁川)、台北、上海(浦東)、香港、バンコク、シンガポールのアジア6都市へ到着するハイスピード輸送が実現した(就航時)。

また、旅客機と貨物専用機を保有する日本唯一のコンビネーションキャリアとして、国内外とつながるANAの航空ネットワークを利用した国内・国際輸送が可能となった。

北九州空港からつながる新たな物流ネットワークの誕生で、九州・西中国エリアの貨物拠点空港として、今後の地域経済への発展が期待される。

I. 10年間のトピックス

・大韓航空による国際貨物定期便が新規就航

～仁川ハブを経由して世界40ヶ国、101都市へ～

令和元年（2019年）11月30日に、大韓航空の大型貨物専用機が新規就航した。毎週水曜日と土曜日の週2便で、「米国（ロサンゼルス）→北九州空港→仁川国際空港」というルートで輸出貨物の取扱いが開始された。

大型貨物専用機の就航に伴い、半導体製造装置などの大型貨物の運搬が可能となり、仁川ハブを経由することで世界40ヶ国、101都市との接続が可能となった。

・訪日誘客支援空港への認定

積極的な国際線の路線誘致や、地方都市同士を結ぶ路線など独自の誘致活動が評価され、平成29年（2017年）7月4日、国土交通省より「訪日誘客支援空港」に認定された。この認定では、認定空港を「拡大支援型」、「継続支援型」、「育成支援型」の3つのカテゴリーに分類しているが、北九州空港は、最も支援の大きい拡大支援型として認定されている。平成29年（2017年）度から令和2年（2020年）度の4年間、国から以下のようなハード、ソフト両面で重点的な支援を受けることとなり、相次ぐ国際定期路線の新規就航につながった。

【支援制度の内容】

- ①国際定期路線の新規就航・増便に対する着陸料減免（全額免除3ヵ年）
- ②国際定期路線の新規就航・増便にかかる地上支援業務などの経費の軽減（率1/3）
- ③ターミナルビルの改修や設備の導入など外国人受入環境向上に係る経費の軽減（率1/3）

・北九州空港将来ビジョン策定/ビジョン推進強化期間

平成26年（2014年）12月に「北九州空港将来ビジョン」を策定した。このビジョンは、「福岡空港と北九州空港の役割分担と相互補完」の考え方に基づき、「九州・西中国の物流拠点空港」、「北部九州の活発な交流を支える空港」、「航空関連産業の拠点空港」という3つの将来像を実現することを掲げており、これらを通じて空港及び周辺地域が相互に発展する好循環を生み出し、街の活力につなげることを目指した。

平成28年（2016年）度から平成30年（2018年）度までの3ヶ年を「北九州空港将来ビジョン推進強化期間」とし、路線誘致や集客活動を行った結果、旅客数は3年連続で過去最高を更新した。

II. 計画、構想

1 北九州港長期構想の策定と北九州港港湾計画の改訂

(1) 長期構想の策定

港を取り巻く社会経済情勢の変化や企業・市民の港湾に対するニーズの多様化等に対応するため、20～30年先の将来のあるべき姿を示した北九州港長期構想を平成23年（2011年）5月に策定した。

策定するにあたり、学識経験者、港湾関係者、関係行政機関等で構成された長期構想委員会を平成20～23年（2008～2011年）の間に合計6回開催し、将来の北九州港のあり方について検討を行った。また、2回のパブリックコメントにより、市民や港湾利用者の方々からも幅広く意見を聴取し策定した。

北九州港長期構想では、「ものづくりを支え、まちを元気にする」、「人と地球にやさしく、世界の環境首都を支える」の2つの理念を掲げるとともに、以下の4つの将来像を示した。

- ・ものづくり産業を支える物流基盤としての港
- ・災害に強く、いつも安全で、市民生活や企業活動を支える港
- ・環境首都（環境モデル都市）にふさわしい港
- ・多くの人が憩い・賑わう港

(2) 港湾計画の改訂

「北九州港長期構想」に掲げられた施策の中から、今後概ね10年以内に着手すべきものを「北九州港長期構想検討委員会」での議論や市民意見を参考に検討し、平成24年（2012年）1月に港湾計画の改訂を行った。

港湾計画改訂の中で、成長著しいアジアに向き合う最前線に位置する港湾として、背後圏に立地するものづくり産業の競争力を強化するとともに、「世界の環境首都」を目指す北九州市を港の分野から支えるため、平成30年（2018年）代前半を目標年次として、以下の4つの方針を定めた。

- 【物流】ものづくり産業を支える港づくり
- 【交流】多くの人が憩い賑わう港づくり
- 【環境】環境首都にふさわしい港づくり
- 【安全・安心】災害に強く、安全・安心な港づくり

・港湾計画の変更概要

審議会 時期	変更の種類	対象地区	主な内容	計画変更の内容
H23. 12	改訂	全体	港湾の能力 新門司南(-7.5m)岸壁 新門司航路拡幅(300→400m) 新門司北(-10m)岸壁 白野江人工島の削除 西海岸(-11m)の耐震化 戸畑航路(-17m)隅切り 奥洞海航路拡幅(120→150m) 貯木場海面処分地(33ha) 響灘東海面処分地(100ha) 響灘東(-13m)岸壁	将来貨物量を1億2060万トンに設定 公共埠頭計画、旅客船埠頭計画、危険物取扱施設計画、専用埠頭計画、水域施設計画、外郭施設計画、小型船だまり計画、マリーナ計画、臨港交通施設計画、廃棄物処理計画、港湾環境整備施設計画、土地造成計画、土地利用計画、効率的な運営を特に促進する区域（PFI、特定埠頭）、臨海部物流拠点を形成する区域、

II. 計画、構想

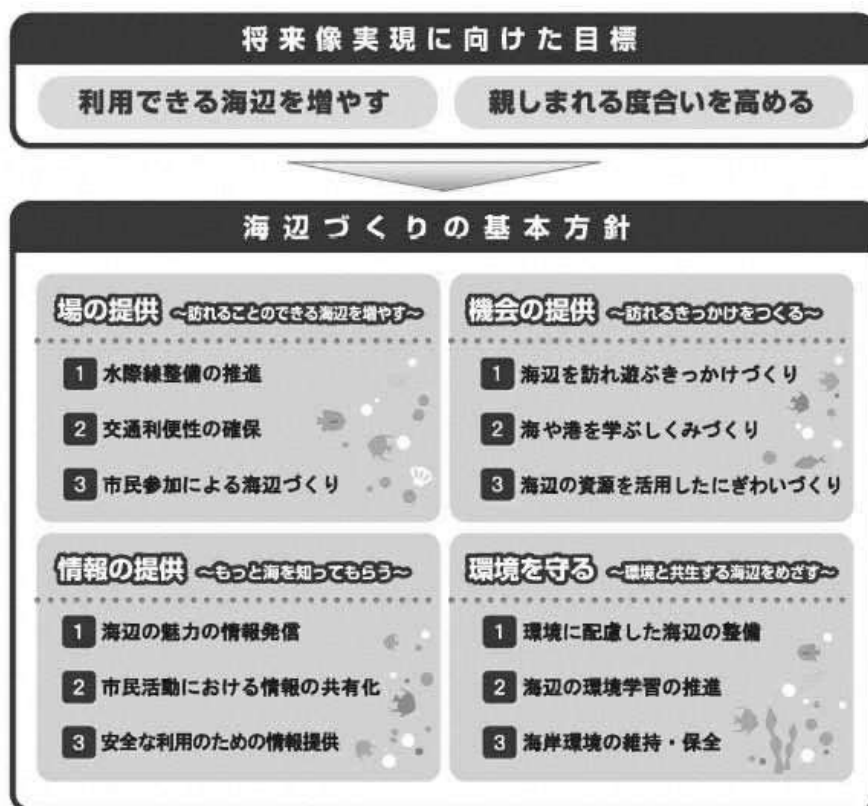
H23. 12	改訂	全体	響灘西(-15m)岸壁の耐震化 響灘西(-11m)岸壁 等	国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設、港湾及び港湾に隣接する地域の保全、大規模地震対策施設
H24. 8	軽易な変更	日明	油槽所跡地、日明積出基地の土地有効活用	専用埠頭計画、土地利用計画
		北湊	企業(株式会社J-オイルミルズ)専用ドルフィンを設置	専用埠頭計画
		若松	若松漁船だまりの拡張、防波堤設置	小型船だまり計画、土地造成及び土地利用計画
H25. 4	軽易な変更	若松	物揚場(元国鉄若松駅→建築都市局再開発課)の廃止	公共埠頭計画の廃止、土地利用計画
		響灘東	再生可能エネ生産施設、実証試験施設の誘致	土地利用計画
H25. 11	軽易な変更	砂津(浅野)	新球技場建設に伴う土地利用等の見直し	小型船だまり計画、臨港交通施設計画、港湾環境整備施設計画、土地利用計画、
		砂津(延命寺)	廃油処理施設の廃止	公共埠頭計画、水域施設計画、廃棄物処理計画、土地利用計画
		八幡	世界遺産	その他重要事項
H27. 1	軽易な変更	新門司北	企業の立地に伴う土地利用等の見直し	土地利用計画
H27. 5	軽易な変更	砂津	・親球技場の事業計画決定に伴う土地利用計画の見直し及び港湾緑地の位置づけ ・民間開発計画に伴う土地利用計画の見直し	専用埠頭計画、港湾環境整備施設計画、土地利用計画
H27. 12	一部変更	響灘西 響灘東	「洋上風力発電施設の設置可能エリア」の設定	その他重要事項(再生可能エネルギー源を利活用する区域)
		響灘西	企業立地の促進を図るための土地利用等の見直し	土地利用計画 臨海部物流拠点の形成を測る区域

II. 計画、構想

H28. 11	軽易な変更	太刀浦	企業要請により、公共埠頭を専用埠頭に変更	公共埠頭計画、専用埠頭計画、土地利用計画
		新門司南	企業（出光）要請によりドルフィン撤去及び恒見船だまりの拡張等	専用埠頭計画、水域施設計画、小型船だまり計画、土地利用計画
		響灘西	企業立地の促進を図るための土地利用等の見直し	港湾環境整備施設計画、土地利用計画
		門司港レトロ	ウォーターフロント空間の一体的な賑わい創出を図るための土地利用の見直し	土地利用計画
H30. 11	軽易な変更	日明	企業立地の促進を図るための土地利用の見直し	危険物取扱施設計画、土地利用計画
		響灘東	企業要請により、専用埠頭を計画	専用埠頭計画
R1. 11	軽易な変更	響灘東	社会情勢の変化に対応するため、土地利用計画等の見直し	港湾環境整備施設計画、土地利用計画
		新門司北	土地需要の変化に対応するため、土地利用計画の見直し	土地利用計画

II. 計画、構想

2 新・海辺のマスタープラン



・新・海辺のマスタープランの策定

これまでに「市民に親しまれる水際線づくりマスタープラン（平成6年（1994年）策定）」、「海辺のマスタープラン2010（平成14年（2002年）策定）」を策定し、水際線の市民利用の促進に取り組んできた。

平成23年（2011年）に、本市の海辺が多くの人に利用され、親しまれるよう、目標とする海辺の将来像や取り組み方針を定めた「新・海辺のマスタープラン」を策定し、平成28年（2016年）には、市民意識や社会経済環境の変化を踏まえて、計画の見直しを行った。

「新・海辺のマスタープラン」を着実に推進していくため、市民団体の代表者や学識経験者などの委員で構成する「北九州市海辺利用促進会議」から意見を聴きながら、利用者の視点に立った海辺づくりに取り組んでいる。

計画内容

策定年月	平成23年（2011年）5月（平成28年（2016年）11月中間見直し）
計画期間	平成23年（2011年）度～令和2年（2020年）
計画の対象箇所	市内全域の水際線と近接する海域及び陸域の一带
対象者	市民だけでなく、広く国内外からの来訪者も含める

Ⅲ. 資料

1 港勢

(1) 北九州港輸出入額年次別表

(単位：百万円)

年次	総額	輸出額	輸入額
平成21	1,446,821	805,598	641,223
22	1,870,250	1,038,465	831,785
23	2,066,236	1,036,694	1,029,542
24	2,126,155	1,025,147	1,101,008
25	2,464,605	1,166,082	1,298,523
26	2,428,840	1,125,733	1,303,108
27	2,414,937	1,225,211	1,189,726
28	2,067,505	1,062,255	1,005,250
29	2,458,072	1,297,540	1,160,532
30	2,648,713	1,390,751	1,257,962

資料：九州経済圏の貿易（門司税関）

(2) 北九州港海上出入貨物年次別表

(単位：トン)

年次	合計	外国貿易			内国貿易		
		計	輸出	輸入	計	移出	移入
平成21	86,744,847	24,357,006	5,602,340	18,754,666	62,387,841	30,754,443	31,633,398
22	98,844,428	30,533,899	6,772,587	23,761,312	68,310,529	33,694,593	34,615,936
23	99,979,308	31,743,432	6,829,966	24,913,466	68,235,876	33,836,943	34,398,933
24	98,840,506	32,622,477	6,949,665	25,672,812	66,218,029	32,543,186	33,674,843
25	100,526,997	33,715,673	7,526,127	26,189,546	66,811,324	32,348,230	34,463,094
26	100,097,507	32,684,542	6,966,531	25,718,011	67,412,965	32,396,770	35,016,195
27	99,330,830	33,302,138	7,279,889	26,022,249	66,028,692	31,992,842	34,035,850
28	98,527,135	32,354,045	7,215,125	25,138,920	66,173,090	31,183,614	34,989,476
29	101,500,369	32,436,543	7,385,345	25,051,198	69,063,826	32,599,195	36,464,631
30	101,762,049	32,542,484	7,270,868	25,271,616	69,219,565	32,640,668	36,578,897

Ⅲ. 資料

(3) 北九州港海上出入貨物輸出上位5品目の推移

順位 年別	1			2			3			4			5		
	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)
平成21	鋼材	1,500,638	26.8	化学薬品	544,058	9.7	金属くず	445,939	8.0	金属製品	438,694	7.8	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	374,901	6.7
22	鋼材	2,164,340	32.0	金属製品	650,953	9.6	化学薬品	563,989	8.3	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	429,929	6.3	自動車部品	362,526	5.4
23	鋼材	1,612,636	23.6	金属製品	1,149,147	16.8	化学薬品	565,720	8.3	自動車部品	463,879	6.8	非金属鉱物	458,722	6.7
24	金属製品	1,484,265	21.4	鋼材	1,210,675	17.4	化学薬品	548,429	7.9	非金属鉱物	486,012	7.0	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	407,942	5.9
25	鋼材	1,510,739	20.1	金属製品	1,475,649	19.6	化学薬品	491,372	6.5	原油	460,000	6.1	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	444,651	5.9
26	鋼材	1,549,604	22.2	金属製品	1,387,785	19.9	化学薬品	495,301	7.1	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	431,833	6.2	再利用資材	382,175	5.5
27	鋼材	1,399,966	19.2	金属製品	1,309,292	18.0	化学薬品	532,874	7.3	非金属鉱物	510,906	7.0	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	435,771	6.0
28	鋼材	1,451,146	20.1	金属製品	1,197,451	16.6	化学薬品	613,279	8.5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	459,911	6.4	金属くず	393,256	5.5
29	鋼材	1,665,591	22.6	金属製品	982,887	13.3	化学薬品	618,577	8.4	金属くず	564,803	7.6	コークス	485,656	6.6
30	鋼材	1,494,649	20.6	金属製品	1,044,070	14.4	金属くず	580,652	8.0	化学薬品	539,613	7.4	コークス	520,010	7.2

(単位：トン)

Ⅲ. 資料

(4) 北九州港海上出入貨物輸入上位5品目の推移

(単位：トン)

順位 年別	1			2			3			4			5		
	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)
平成21年	石炭	6,581,692	35.1	鉄鉱石	5,531,893	29.5	LNG(液化天然ガス)	2,263,438	12.1	非金属鉱物	389,072	2.1	化学薬品	312,776	1.7
22年	石炭	8,339,534	35.1	鉄鉱石	7,766,989	32.7	LNG(液化天然ガス)	2,219,596	9.3	非金属鉱物	537,221	2.3	化学薬品	388,975	1.6
23年	石炭	8,992,338	36.1	鉄鉱石	7,520,847	30.2	LNG(液化天然ガス)	2,678,388	10.8	非金属鉱物	559,513	2.2	化学薬品	454,449	1.8
24年	石炭	9,481,762	36.9	鉄鉱石	6,966,292	27.1	LNG(液化天然ガス)	3,402,288	13.3	非金属鉱物	598,939	2.3	コークス	469,307	1.8
25年	石炭	9,422,277	36.0	鉄鉱石	6,923,051	26.4	LNG(液化天然ガス)	3,749,496	14.3	非金属鉱物	620,360	2.4	化学薬品	491,386	1.9
26年	石炭	8,448,970	32.9	鉄鉱石	6,622,895	25.8	LNG(液化天然ガス)	4,619,039	18.0	非金属鉱物	636,700	2.5	自動車部品	564,909	2.2
27年	石炭	9,723,268	37.4	鉄鉱石	7,471,786	28.7	LNG(液化天然ガス)	3,238,123	12.4	非金属鉱物	657,481	2.5	自動車部品	621,979	2.4
28年	石炭	8,790,473	35.0	鉄鉱石	7,815,853	31.1	LNG(液化天然ガス)	2,999,180	11.9	自動車部品	646,507	2.6	化学薬品	574,767	2.3
29年	石炭	8,419,537	33.6	鉄鉱石	7,857,628	31.4	LNG(液化天然ガス)	3,069,640	12.3	自動車部品	635,536	2.5	非金属鉱物	592,587	2.4
30年	石炭	8,602,357	34.0	鉄鉱石	7,547,771	29.9	LNG(液化天然ガス)	3,250,280	12.9	化学薬品	761,004	3.0	自動車部品	580,141	2.3

Ⅲ. 資料

(5) 北九州港コンテナ貨物(実入) 年次別表

(単位: TEU、トン)

区分 年次	合計			外国貿易			内国貿易		
	計	出	入	計	出	入	計	出	入
平成21	307,031	146,702	160,329	288,673	135,330	153,343	18,358	11,372	6,986
	6,444,394	3,068,572	3,375,822	6,043,805	2,800,650	3,243,155	400,589	267,922	132,667
22	362,173	171,763	190,410	330,536	152,017	178,519	31,637	19,746	11,891
	7,456,910	3,474,274	3,982,636	6,855,820	3,076,819	3,779,001	601,090	397,455	203,635
23	378,508	178,209	200,299	343,126	157,581	185,545	35,382	20,628	14,754
	7,729,766	3,494,762	4,235,004	7,079,034	3,117,347	3,961,687	650,732	377,415	273,317
24	373,404	172,086	201,318	341,023	155,250	185,773	32,381	16,836	15,545
	7,516,795	3,459,822	4,056,973	6,919,563	3,114,119	3,805,444	597,232	345,703	251,529
25	360,597	166,813	193,784	326,232	148,662	177,570	34,365	18,151	16,214
	7,437,189	3,507,421	3,929,768	6,751,913	3,118,784	3,633,129	685,276	388,637	296,639
26	365,197	164,798	200,399	337,072	149,510	187,562	28,125	15,288	12,837
	7,581,967	3,495,252	4,086,715	6,996,760	3,156,069	3,840,691	585,207	339,183	246,024
27	377,618	177,946	199,672	347,459	159,739	187,720	30,159	18,207	11,952
	7,697,163	3,701,514	3,995,649	7,158,923	3,346,586	3,812,337	538,240	354,928	183,312
28	389,952	183,291	206,661	355,488	162,359	193,129	34,464	20,932	13,532
	7,971,346	3,901,454	4,069,892	7,387,546	3,496,174	3,891,372	583,800	405,280	178,520
29	413,262	195,942	217,320	375,314	172,383	202,931	37,948	23,559	14,389
	8,523,002	4,116,510	4,406,492	7,785,168	3,645,989	4,139,179	737,834	470,521	267,313
30	410,002	194,102	215,900	372,929	172,961	199,968	37,073	21,141	15,932
	8,423,732	4,033,272	4,390,460	7,790,474	3,642,665	4,147,809	633,258	390,607	242,651

上段・・・実入20F換算個数 (TEU)

下段・・・貨物トン数

Ⅲ. 資料

(6) 北九州港国際コンテナ貨物 輸出上位5品目の推移

(単位：TEU)

順位 年別	1			2			3			4			5		
	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)	品名	数量	構成比 (%)
平成21	化学薬品	21,787	15.1	自動車部品	21,690	15.0	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	15,779	10.9	ゴム製品	12,685	8.8	産業機械	11,328	7.8
22	自動車部品	31,089	18.5	化学薬品	24,008	14.3	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	17,799	10.6	産業機械	13,908	8.3	ゴム製品	13,441	8.0
23	自動車部品	44,336	25.6	化学薬品	21,917	12.7	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	16,445	9.5	ゴム製品	14,890	8.6	産業機械	13,827	8.0
24	自動車部品	36,108	21.2	化学薬品	21,535	12.7	ゴム製品	21,057	12.4	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	16,751	9.8	再利用資材	13,875	8.2
25	ゴム製品	24,545	14.8	自動車部品	21,535	13.0	化学薬品	19,307	11.7	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	17,864	10.8	再利用資材	14,479	8.7
26	ゴム製品	19,956	12.2	化学薬品	19,928	12.2	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	17,829	10.9	自動車部品	16,835	10.3	再利用資材	16,186	9.9
27	自動車部品	28,615	16.3	化学薬品	21,210	12.1	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	20,066	11.4	ゴム製品	17,661	10.0	再利用資材	15,239	8.7
28	自動車部品	26,499	14.8	化学薬品	23,259	13.0	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	20,406	11.4	ゴム製品	17,138	9.6	産業機械	13,998	7.8
29	化学薬品	25,156	13.3	自動車部品	23,996	12.7	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	20,527	10.9	ゴム製品	20,215	10.7	産業機械	15,764	8.3
30	自動車部品	26,829	14.5	ゴム製品	23,152	12.5	化学薬品	21,567	11.6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	19,318	10.4	産業機械	17,517	9.4

Ⅲ. 資料

(7) 北九州港国際コンテナ貨物 輸入上位5品目の推移

(単位：TEU)

順位 年別	1			2			3			4			5		
	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)	品名	数量	構成 比 (%)
平成21	自動車部品	17,554	11.2	家具装備品	13,865	8.8	衣服・身廻 品・はきもの	11,251	7.2	輸送用容器	8,230	5.2	産業機械	7,413	4.7
22	自動車部品	28,091	15.1	家具装備品	14,706	7.9	衣服・身廻 品・はきもの	11,584	6.2	輸送用容器	10,743	5.8	化学薬品	9,167	4.9
23	自動車部品	28,678	14.7	家具装備品	16,019	8.2	輸送用容器	11,458	5.9	化学薬品	11,392	5.8	染料・塗料・合 成樹脂・その他 化学工業品	8,976	4.6
24	自動車部品	38,261	19.6	家具装備品	16,022	8.2	輸送用容器	11,054	5.7	化学薬品	9,530	4.9	染料・塗料・合 成樹脂・その他 化学工業品	8,973	4.6
25	自動車部品	38,684	20.4	家具装備品	15,014	7.9	化学薬品	10,167	5.4	輸送用容器	10,068	5.3	電気機械	8,531	4.5
26	自動車部品	46,252	23.4	家具装備品	14,376	7.3	化学薬品	10,448	5.3	染料・塗料・合 成樹脂・その他 化学工業品	9,562	4.8	電気機械	9,518	4.8
27	自動車部品	48,770	25.1	家具装備品	12,507	6.4	化学薬品	10,269	5.3	金属製品	9,574	4.9	電気機械	9,360	4.8
28	自動車部品	47,991	24.3	家具装備品	16,284	8.2	化学薬品	11,538	5.8	金属製品	9,196	4.7	衣服・身廻 品・はきもの	8,436	4.3
29	自動車部品	49,366	23.3	家具装備品	16,840	8.0	化学薬品	13,196	6.2	金属製品	10,448	4.9	電気機械	10,409	4.9
30	自動車部品	43,993	21.4	化学薬品	16,216	7.9	家具装備品	14,726	7.2	金属製品	10,742	5.2	産業機械	10,533	5.1

Ⅲ. 資料

(8) 北九州港入港船舶年次別表

(単位：隻・トン)

年次	合計		外航船		内航船	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
平成21	61,013	93,754,709	3,925	37,358,033	57,088	56,396,676
22	61,963	99,014,723	4,688	48,059,098	57,275	50,955,625
23	58,862	97,608,677	4,638	47,739,148	54,224	49,869,529
24	53,018	96,345,722	4,712	50,390,667	48,306	45,955,055
25	57,814	98,545,368	4,620	52,515,265	53,194	46,030,103
26	58,746	97,439,040	4,485	51,181,588	54,261	46,257,452
27	57,372	100,010,437	4,446	53,286,435	52,926	46,724,002
28	55,051	97,509,550	4,424	54,014,811	50,627	43,494,739
29	54,929	100,861,030	4,387	57,334,120	50,542	43,526,910
30	54,659	99,665,072	4,170	56,125,144	50,489	43,539,928

(9) 北九州港入港フェリー年次別表

(単位：隻・トン・人)

年次	船舶		貨物トン数			乗降人員		
	隻数	総トン数	計	移出	移入	計	乗	降
平成21	8,544	35,823,351	34,758,515	16,947,540	17,810,975	974,023	475,078	498,945
22	8,305	31,811,490	37,229,545	18,424,565	18,804,980	967,382	472,322	495,060
23	7,676	29,234,575	38,248,005	18,978,320	19,269,685	965,381	476,704	488,677
24	2,529	26,269,782	37,136,530	18,382,485	18,754,045	869,523	431,759	437,764
25	2,481	25,799,139	38,449,410	18,993,310	19,456,100	888,090	439,442	448,648
26	2,476	25,723,639	39,075,935	19,374,205	19,701,730	858,974	427,892	431,082
27	2,496	26,786,847	39,665,755	19,586,925	20,078,830	945,868	473,547	472,321
28	2,132	24,879,713	42,967,395	21,068,455	21,898,940	982,776	495,064	487,712
29	2,096	24,647,817	45,216,375	22,238,495	22,977,880	1,010,125	512,863	497,262
30	2,068	24,380,950	45,461,425	22,337,875	23,123,550	939,189	464,713	474,476

Ⅲ. 資料

(10) 平成30年北九州港港勢概況

■海上出入貨物品種別ベストテン

◇外貿（平成30年）

(単位：トン)

輸出					輸入				
順位	品種	数量	構成比(%)	前年比(%)	順位	品種	数量	構成比(%)	前年比(%)
1(1)	鋼材	1,494,649	20.6	89.7	1(1)	石炭	8,602,357	34.0	102.2
2(2)	金属製品	1,044,070	14.4	106.2	2(2)	鉄鉱石	7,547,771	29.9	96.1
3(4)	金属くず	580,652	8.0	102.8	3(3)	LNG(液化天然ガス)	3,250,280	12.9	105.9
4(3)	化学薬品	539,613	7.4	87.2	4(6)	化学薬品	761,004	3.0	136.8
5(5)	コークス	520,010	7.2	107.1	5(4)	自動車部品	580,141	2.3	91.3
6(7)	ゴム製品	494,473	6.8	122.1	6(5)	非金属鉱物	568,804	2.3	96.0
7(6)	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	416,360	5.7	97.0	7(9)	鉄鋼	322,743	1.3	111.4
8(10)	自動車部品	327,892	4.5	123.1	8(7)	非鉄金属	305,050	1.2	99.3
9(9)	非金属鉱物	305,036	4.2	107.9	9(8)	金属製品	274,827	1.1	94.4
10(11)	産業機械	281,438	3.9	113.5	10(10)	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	266,128	1.1	113.7
	その他	1,266,675	17.4	88.2		その他	2,792,511	11.0	99.8
合計		7,270,868	100.0	98.4	合計		25,271,616	100.0	100.9

注 () 内は前年順位

◇内貿（平成30年）

(単位：トン)

移出					移入				
順位	品種	数量	構成比(%)	前年比(%)	順位	品種	数量	構成比(%)	前年比(%)
1(1)	完成自動車	24,875,992	76.2	102.5	1(1)	完成自動車	25,512,109	69.7	100.9
2(2)	セメント	1,346,918	4.1	95.7	2(2)	鋼材	3,396,331	9.3	100.9
3(3)	鋼材	1,192,991	3.7	88.4	3(3)	石灰石	1,284,534	3.5	103.3
4(5)	コークス	1,150,380	3.5	114.1	4(5)	非金属鉱物	703,053	1.9	100.7
5(4)	石炭	975,548	3.0	91.2	5(4)	その他の石油	632,889	1.7	51.7
6(6)	砂利・砂	698,894	2.1	98.3	6(71)	揮発油	565,997	1.5	0.0
7(7)	その他輸送機械	673,143	2.1	97.2	7(6)	砂利・砂	549,286	1.5	98.1
8(8)	化学薬品	314,322	1.0	85.0	8(7)	化学薬品	470,624	1.3	91.2
9(9)	水	248,951	0.8	100.5	9(10)	コークス	425,871	1.2	128.3
10(10)	重油	207,388	0.6	110.3	10(12)	取合せ品	402,218	1.1	145.2
	その他	956,141	2.9	74.8		その他	2,635,985	7.2	88.7
合計		32,640,668	100.0	100.1	合計		36,578,897	100.0	100.3

注 () 内は前年順位

Ⅲ. 資料

■海上出入貨物相手先ベストテン

◇外貿（平成30年）

（単位：トン）

輸出					輸入				
順位	仕向国	数量	構成比(%)	前年比(%)	順位	仕出国	数量	構成比(%)	前年比(%)
1(1)	韓国	2,205,638	30.3	97.3	1(1)	オーストラリア	10,006,129	39.6	93.0
2(2)	中国	1,400,990	19.3	90.8	2(2)	中国	3,514,107	13.9	122.0
3(3)	台湾	1,009,570	13.9	100.7	3(3)	カナダ	2,216,317	8.8	89.7
4(4)	インド	392,537	5.4	88.9	4(4)	韓国	1,694,428	6.7	110.4
5(5)	タイ	382,105	5.3	97.1	5(6)	ロシア	1,526,579	6.0	116.8
6(6)	中国（ホンコン）	343,130	4.7	109.9	6(5)	インドネシア	1,287,721	5.1	86.3
7(11)	オーストラリア	200,011	2.8	169.2	7(7)	マレーシア	1,105,368	4.4	126.6
8(14)	マレーシア	191,689	2.6	244.4	8(9)	アメリカ	702,595	2.8	85.2
9(8)	ベトナム	173,915	2.4	92.6	9(10)	台湾	669,072	2.6	100.5
10(10)	メキシコ	157,111	2.2	129.6	10(11)	タイ	515,626	2.0	127.2
	その他	814,172	11.2	88.6		その他	2,033,674	8.0	110.9
合計		7,270,868	100.0	98.4	合計		25,271,616	100.0	100.9

注（ ）内は前年順位

◇内貿（平成30年）

（単位：トン）

移出					移入				
順位	仕向県	数量	構成比(%)	前年比(%)	順位	仕出県	数量	構成比(%)	前年比(%)
1(1)	大阪	14,177,341	43.4	96.6	1(1)	大阪	13,522,559	37.0	97.0
2(2)	兵庫	5,097,339	15.6	101.2	2(2)	兵庫	5,442,141	14.9	102.8
3(3)	愛知	3,518,018	10.8	122.1	3(3)	東京	4,274,243	11.7	109.4
4(4)	東京	3,175,763	9.7	110.9	4(4)	愛知	3,115,347	8.5	102.7
5(5)	愛媛	1,146,217	3.5	98.5	5(5)	山口	2,189,569	6.0	104.4
6(6)	山口	824,376	2.5	95.3	6(6)	愛媛	1,512,001	4.1	99.5
7(8)	千葉	513,643	1.6	74.1	7(7)	大分	1,025,195	2.8	102.4
8(10)	徳島	445,891	1.4	147.7	8(9)	岡山	960,124	2.6	118.7
9(9)	大分	427,639	1.3	127.1	9(10)	広島	531,131	1.5	113.3
10(13)	岡山	258,861	0.8	104.9	10(12)	千葉	476,029	1.3	117.1
	その他	3,055,580	9.4	86.7		その他	3,530,558	9.7	88.4
合計		32,640,668	100.0	100.1	合計		36,578,897	100.0	100.3

注（ ）内は前年順位

Ⅲ. 資料

■国際コンテナ貨物品種別バストテン (平成30年)

(単位：TEU)

輸出					輸入				
順位	品種	数量	構成比(%)	前年比(%)	順位	品種	数量	構成比(%)	前年比(%)
1(2)	自動車部品	26,829	14.5	111.8	1(1)	自動車部品	43,993	21.4	89.1
2(4)	ゴム製品	23,152	12.5	114.5	2(3)	化学薬品	16,216	7.9	122.9
3(1)	化学薬品	21,567	11.6	85.7	3(2)	家具装備品	14,726	7.2	87.4
4(3)	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	19,318	10.4	94.1	4(4)	金属製品	10,742	5.2	102.8
5(5)	産業機械	17,517	9.4	111.1	5(9)	産業機械	10,533	5.1	129.0
6(6)	鋼材	16,148	8.7	108.2	6(6)	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	10,269	5.0	111.4
7(7)	再利用資材	9,301	5.0	73.5	7(5)	電気機械	8,839	4.3	84.9
8(8)	輸送用容器	8,431	4.5	82.1	8(8)	非鉄金属	8,837	4.3	107.7
9(10)	非鉄金属	5,893	3.2	102.8	9(7)	衣服・身廻品・はきもの	8,715	4.2	101.6
10(9)	電気機械	5,274	2.8	64.9	10(11)	樹脂類	6,283	3.1	110.1
	その他	31,986	17.3	100.8		その他	66,467	32.3	92.8
	合計	185,416	100.0	98.1		合計	205,620	100.0	97.1

注 () 内は前年順位

■国際コンテナ貨物相手先バストテン (平成30年)

(単位：TEU)

輸出					輸入				
順位	仕向国	数量	構成比(%)	前年比(%)	順位	仕出国	数量	構成比(%)	前年比(%)
1(2)	韓国	88,714	34.8	97.4	1(1)	中国	104,990	43.6	98.8
2(1)	中国	88,217	34.6	96.8	2(2)	韓国	81,440	33.8	107.9
3(3)	台湾	44,161	17.3	113.1	3(3)	台湾	29,745	12.3	96.3
4(4)	中国(ホンコン)	15,493	6.1	112.4	4(4)	中国(ホンコン)	11,589	4.8	96.0
5(5)	タイ	7,729	3.0	102.4	5(5)	タイ	6,299	2.6	87.7
6(6)	ベトナム	4,362	1.7	78.1	6(6)	ベトナム	3,732	1.5	95.3
7(7)	シンガポール	1,427	0.6	58.8	7(7)	シンガポール	1,932	0.8	133.4
8(9)	アメリカ	1,200	0.5	54.1	8(9)	インド	380	0.2	52.5
9(11)	マレーシア	980	0.4	92.1	9(11)	マレーシア	317	0.1	57.4
10(8)	インドネシア	961	0.4	43.3	10(13)	アメリカ	214	0.1	115.1
	その他	1,524	0.6	46.0		その他	345	0.1	14.9
	合計	254,768	100.0	98.2		合計	240,983	100.0	100.0

注 () 内は前年順位

Ⅲ. 資料

■入港船舶 船種別隻数と総トン数 (平成30年)

(単位：隻・トン)

船種	合 計		外 航 船		内 航 船	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
客船	24,257	3,120,232	26	2,636,858	24,231	483,374
一般貨物船	12,442	26,320,116	1,613	21,717,567	10,829	4,602,549
油送船	2,401	1,189,150	17	26,886	2,384	1,162,264
フルコンテナ船	2,289	19,623,545	1,964	19,029,976	325	593,569
自動車航送船	2,068	24,380,950	0	0	2,068	24,380,950
その他の船舶(自航船)	1,714	2,054,831	7	27,488	1,707	2,027,343
パトロール船	1,604	99,479	0	0	1,604	99,479
内航ケミカル船	1,575	738,637	12	11,800	1,563	726,837
セメント船	1,209	1,653,952	5	18,960	1,204	1,634,992
砂利・砂・石材船	1,128	845,425	0	0	1,128	845,425
貨客船	1,071	102,726	0	0	1,071	102,726
曳船・押船	628	91,247	8	3,626	620	87,621
自動車専用船	406	6,152,819	68	2,268,614	338	3,884,205
作業船(自航船)	345	463,145	6	34,133	339	429,012
漁船	248	1,391	0	0	248	1,391
その他専用船	207	1,235,290	2	15,855	205	1,219,435
LPG船	188	307,495	14	190,085	174	117,410
セミコンテナ船	174	432,846	146	418,874	28	13,972
鋼材船	171	121,475	0	0	171	121,475
RORO船	117	1,320,639	97	1,124,779	20	195,860
LNG船	106	5,227,462	42	4,630,108	64	597,354
外航ケミカル船	102	298,341	102	298,341	0	0
プロダクトオイルタンカー	88	69,088	2	9,174	86	59,914
その他タンカー・タンク船	72	92,638	2	2,974	70	89,664
鉱石船	29	2,977,321	29	2,977,321	0	0
訓練船	10	48,957	0	0	10	48,957
石炭船	8	681,725	8	681,725	0	0
軍艦	2	14,150	0	0	2	14,150
合計	54,659	99,665,072	4,170	56,125,144	50,489	43,539,928

Ⅲ. 資料

■入港外航船舶 船籍国別隻数と総トン数 (平成30年)

(単位：隻・トン)

順位	船籍国	隻数	構成比(%)	総トン数	構成比(%)
1	KR 韓国	1,169	28.0%	5,146,913	9.2%
2	PA パナマ	1,037	24.9%	19,728,275	35.2%
3	HK 中国(ホンコン)	292	7.0%	3,462,487	6.2%
4	BS バハマ	258	6.2%	5,015,896	8.9%
5	BZ ベリーズ	231	5.5%	475,435	0.8%
6	LR リベリア	206	4.9%	4,014,095	7.2%
7	MH マーシャル諸島	159	3.8%	2,954,659	5.3%
8	CN 中国	132	3.2%	856,611	1.5%
9	SG シンガポール	104	2.5%	2,154,277	3.8%
10	TG トーゴ	80	1.9%	133,207	0.2%
11	SL シエラレオネ	76	1.8%	111,384	0.2%
12	JP 日本	66	1.6%	4,072,565	7.3%
13	GB イギリス	54	1.3%	1,043,022	1.9%
14	AG バーブーダ	44	1.1%	373,508	0.7%
15	PH フィリピン	44	1.1%	357,357	0.6%
16	MT マルタ	43	1.0%	1,121,713	2.0%
17	DK デンマーク	32	0.8%	789,436	1.4%
18	MY マレーシア	22	0.5%	856,292	1.5%
19	PT ポルトガル	19	0.5%	298,769	0.5%
20	CY キプロス	11	0.3%	764,856	1.4%
	その他	91	2.2%	2,394,387	4.3%
	合計	4,170	100.0%	56,125,144	100.0%

■入港外航船舶 定期航路別隻数と総トン数 (平成30年)

(単位：隻・トン)

隻数順位	定期外国航路名	隻数	構成比(%)	総トン数	構成比(%)
1	韓国	950	44.2%	6,035,534	30.6%
2	中国(ホンコン含む)	694	32.3%	5,948,508	30.2%
3	東南アジア	294	13.7%	4,684,825	23.8%
4	台湾	213	9.9%	3,046,065	15.5%
	合計	2,151	100.0%	19,714,932	100.0%

Ⅲ. 資料

(11) 北九州空港の利用状況

	利用者数（人）	利用率（％）	貨物取扱量（t）
平成 21 年度	1,167,539	66.5	7,027.8
平成 22 年度	1,165,292	66.4	12,356.7
平成 23 年度	1,164,093	63.8	13,542.0
平成 24 年度	1,258,799	64.9	13,584.8
平成 25 年度	1,371,214	67.1	15,060.0
平成 26 年度	1,247,843	62.6	14,723.8
平成 27 年度	1,292,395	66.6	6,841.0
平成 28 年度	1,373,893	70.6	8,450.6
平成 29 年度	1,594,235	71.5	4,879.9
平成 30 年度	1,767,266	72.6	8,830.1

※旅客については定期便のみ

Ⅲ. 資料

2 北九州港年表（2010年～2019年）

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成22年 (2010年)	1月・北九州港セミナー（東京）開催 2月・写真で見る港の120年パネル展 ・平成21年度物流現場リーダーのためのスキルアップ講座開催 3月・みなとや海辺の活動発表会 ・響灘東D地区2-2-1工区、2-2-2-1工区埋立地1,302,232.89㎡竣功認可告示 4月・田野浦埠頭において特定埠頭事業が開始 ・北九州空港 乗降客500万人達成 5月・帆船「日本丸」寄港 ・「遣唐使船」寄港 ・日韓フェリー就航 ・門司みなと祭 ・「北九州風力発電シンポジウム in 東京」開催 ・新門司東緑地のオープン ・新門司Ⅱ期地区（その2）2-3-2-1工区埋立地21,285,60㎡竣功認可告示 6月・大連港集团有限公司副董事長来北 ・第50回北九州地方港湾審議会開催 7月・響灘北緑地のオープン ・「広島丸」体験航海（関門港ポート天国） ・北九州港・レムチャパン港姉妹港会議開催 ・くきのうみ花火の祭典 ・関門海峡クルージング実施 8月・北九州港物流勉強会開催 ・スカイマーク 羽田・那覇路線就航 ・関門海峡花火大会 ・クルーズ客船「ふじ丸」寄港 ・親子みなと見学会 9月・北九州空港 初のジャンボ貨物機によるチャーター便就航 ・響灘西地区E区域7-2-2-1工区埋立地23,841,777㎡竣功認可告示 10月・北九州空港 揚子江快運による初の国際貨物定期便就航 ・関門海峡整備100周年記念講演開催 ・株式会社ブリヂストン北九州工場 第3期増強を決定 ・物流現場リーダーのためのスキルアップ講座開催 11月・第6回北九州港湾空港局-仁川広域市経済首都推進本部 局長会議開催 ・東アジア経済交流推進機構 第6回ロジスティクス部会参加（中国・天津） ・国内フェリー・RORO物流セミナー開催 ・「ひびきLNG基地」建設起工式開催 ・レムチャパン港研修生受入 12月・仁川産業物流展参加 ・第51回北九州地方港湾審議会開催	2月・北九州市非核平和都市宣言を実施 3月・迷惑行為防止推進地区を2地区（門司示（面積41,079.66㎡）港レトロ地区、若松南海岸地区）指定 4月・迷惑行為防止重点地区の小倉都心地区並びに黒崎副都心地区の追加指定 7月・北九州市暴力団排除条例施行 8月・「北九州市が暴力団排除措置を講ずるための連携に関する協定」を福岡県警と締結 10月・北九州市自治基本条例施行 11月・コンビニエンス・ストアでの市税収納開始 12月・中華人民共和国駐日本国大使館程永華特命全権大使他来市	1月・特殊法人「日本年金機構」が発足 ・ハイチでマグニチュード7の地震 ・日本航空が会社更生手続きを申請 2月・バンクーバー冬季五輪 3月・子ども手当法成立 ・高校授業料無償化法成立 4月・相模原市が政令指定都市へ移行 ・刑事訴訟法改正 殺人など重大犯罪の公訴時効を廃止、延長 5月・上海万博開幕 ・高速増殖炉「もんじゅ」運転再開 6月・小惑星探査機はやぶさ地球帰還 8月・チリで鉱山の落盤事故 9月・尖閣諸島中国漁船衝突 ・メジャーリーグ・イチローが10年連続200安打達成 10月・ノーベル賞 日本人2人が受賞決定 12月・東北新幹線全線開業

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 23 年 (2011 年)	<p>2月・北九州港セミナー（東京）開催</p> <p>3月・北九州空港が開港 5 周年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターフライヤー羽田路線増便 <p>5月・帆船「日本丸」寄港</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・海辺のマスタープラン」策定 ・響灘西地区 E 区域 7-2-2-2 工区、8-2 工区埋立地 143,900.31 m²竣功認可告示 <p>6月・風力発電施設見学会「2011 グローバルウインドデイ in 北九州」開催</p> <p>7月・「広島丸」体験航海（関門港ポート天国）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとや海辺の活動発表会 ・北九州港物流勉強会開催 ・第 25 回くきのうみ花火の祭典 ・新門司Ⅱ期地区（その 2）2-3-2-2 工区埋立地 21,077.14 m²竣功認可告示 <p>8月・関門港ポート天国推進協議会作業部会 永木三茂会長が「みなとまちづくりマイスター」に認定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 23 回関門海峡花火大会 ・ミニ・ミニ・トリアスロン ・クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」寄港 <p>9月・第 52 回北九州市地方港湾審議会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グリーンアジア国際戦略総合特区」を福岡県、福岡市とともに申請 <p>10月・北九州空港まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州港・タコマ港姉妹港会議開催 <p>11月・下関港とともに関門港として日本海側拠点港に選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内フェリー・RORO 物流セミナー開催 ・大連港研修生派遣 <p>12月・「第 6 回再生可能エネルギー世界展示会」出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通政策審議会第 47 回港湾分科会における北九州港港湾計画改訂の審議 ・「グリーンアジア国際戦略総合特区」に指定 同時に環境未来都市にも選定 ・クルーズ客船「にっぽん丸」寄港 	<p>2月・迷惑行為防止推進地区を 3 地区（下曾根駅南側大通地区、八幡駅前地区、戸畑駅前浅生地区）指定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 13 回北九州市長選挙 北橋健治氏 当選（2 選） <p>3月・東日本大震災発生</p> <p>5月・環境マスコットキャラクター「ていたん」誕生</p> <p>7月・市立大里柳市民センター新築移転（門司）</p> <p>8月・やまぎんレトロライオン「潮風号」利用者 50 万人を達成</p> <p>10月・北九州銀行が誕生</p> <p>11月・市立清見市民センター古城市民サンプレーン開館</p> <p>12月・北九州市制 50 周年記念事業基本構想策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の環境未来都市に選定 	<p>1月・霧島連山新燃岳が噴火</p> <p>2月・ムバラクエジプト大統領 反政府デモ激化により辞任</p> <p>3月・東日本大震災発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死者・行方不明者 28,000 人、大津波が襲い、岩手、宮城、福島 3 県で壊滅状態の地区が続出、マグニチュードは 9.0、死者 11,532 人、行方不明者 16,411 人（警察庁発表） ・九州新幹線全線開通 <p>4月・英ウィリアム王子とキャサリン妃が挙式</p> <p>5月・元炭鉱夫山本作兵衛氏の筑豊炭鉱画をユネスコが国内初の世界記憶遺産に登録</p> <p>6月・日本のスパコン「京（けい）」が計算速度世界ランキング 1 位</p> <p>7月・サッカー女子ワールドカップで日本代表（なでしこジャパン）が初優勝</p> <p>8月・女子サッカー日本代表（なでしこジャパン）に国民栄誉賞授与</p> <p>9月・民主党、国民新党の連立による野田内閣発足</p> <p>10月・生食用牛肉の新規制スタート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米アップル社の創業者 スティーブ・ジョブズ氏死去 <p>11月・大阪府知事、大阪市長のダブル選挙大阪維新の会圧勝</p> <p>12月・北朝鮮の金正日総書記急死</p>

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 24 年 (2012 年)	1 月 ・北九州港港湾計画の改訂（概要の公告） 2 月 ・北九州港セミナー（東京）開催 3 月 ・関門海峡クルージング 5 月 ・帆船「日本丸」寄港 6 月 ・風力発電施設見学会「2012 グローバルウィンドデイ in 北九州」開催 7 月 ・スターフライヤー釜山路線を就航 ・「広島丸」体験航海（関門港ポート天国） ・北九州港物流勉強会開催 ・第 26 回くきのうみ花火の祭典 8 月 ・第 24 回関門海峡花火大会 ・ミニ・ミニ・トライアスロン ・「みなとや海辺の活動支援」パネル展 ・クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」寄港 ・第 53 回北九州市地方港湾審議会開催 9 月 ・太刀浦 CT において震災がれきの受け入れ開始 ・新若戸道路の供用開始 ・南極観測船「しらせ」寄港 ・北九州港港湾計画の軽易な変更（概要の公告） 10 月 ・スターフライヤーの訓練施設運用開始 ・響灘ピオトープ オープン（駐車場やエントランスは港湾空港局で整備） ・北九州港物流勉強会開催 ・若松ビーチレクリエーション開催 ・北九州空港まつり ・北九州港・レムチャパン港姉妹港会議開催 ・うみたびモニターツアー実施 11 月 ・北九州市再生可能エネルギー産業シンポジウム開催 ・門司ビーチレクリエーション開催 12 月 ・クルーズ客船「にっぽん丸」寄港	2 月 ・北九州市ミュージアム構想「北九州市時と風の博物館」専用ウェブサイトの運用開始 4 月 ・北九州市制 50 周年記念ロゴマーク及びキャッチフレーズの決定「結び合う ちから 未来へ 響き」 5 月 ・北九州市環境ミュージアムリニューアルオープン 6 月 ・東日本大震災で発生した宮城県石巻市の災害廃棄物の受け入れを表明 7 月 ・まちなか避暑地の実施 8 月 ・漫画ミュージアム開館 9 月 ・若戸トンネル開通 10 月 ・響灘ピオトープ本格オープン ・若戸大橋開通 50 周年記念若松・戸畑イベント開催 11 月 ・第 30 回門司港レトロマラソン開催	1 月 ・野田改造内閣発足 2 月 ・復興庁発足 3 月 ・改正労働者派遣法成立 4 月 ・熊本市が政令指定都市へ移行 5 月 ・東京スカイツリー開業 6 月 ・野田第 2 次改造内閣発足 7 月 ・九州北部豪雨災害 8 月 ・税と社会保障の一体改革関連法成立 10 月 ・新日本製鐵株式会社と住友金属工業株式会社が合併、新日鐵住金株式会社が発足 ・iPS 細胞作製の山中伸弥京都大学教授 ノーベル医学生理学賞受賞決定 11 月 ・米大統領選で民主党のオバマ大統領が再選 12 月 ・自民党、公明党連立の第 2 次安倍内閣発足
平成 25 年 (2013 年)	1 月 ・「北九州港に関するパネル展」 ・海外ポートセールス事業「釜山ミッション」派遣 ・新門司Ⅱ期地区（その 2）1-3-2-4-2 工区埋立地 11,231.38 m ² 竣功認可告示 2 月 ・北九州港セミナー（東京）開催 3 月 ・タイ王国レムチャパン港の研修生受入 ・関門海峡クルージング 4 月 ・第 54 回 地方港湾審議会開催 ・北九州港港湾計画の軽易な変更（概要の公告） ・新門司マリーナで「2013 九州ポートショー in 北九州」開催 5 月 ・日本貨物航空が、仁川＝北九州＝成田路線を就航 ・クルーズ客船「ふじ丸」寄港 ・クルーズ客船「ばしふいっくびいなす」市民クルーズ ・響灘東埠頭 1 号道路（新響灘大橋）の開通 ・門司みなと祭	1 月 ・第 13 回市議会議員一般選挙 2 月 ・北九州市制 50 周年記念式典 3 月 ・自然史・歴史博物館リニューアルオープン 4 月 ・コムシティがオープン 5 月 ・八幡西区役所がコムシティに移転 7 月 ・外国人にも住民基本台帳システムの運用開始 9 月 ・「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」のユネスコ世界文化遺産への推薦が正式決定	1 月 ・48 代横綱・大鵬死去 2 月 ・パソコン遠隔操作事件で男を逮捕 3 月 ・中国国家主席に習近平総書記が就任 4 月 ・ボストン・マラソンで爆弾テロ 5 月 ・共通番号制度関連法（マイナンバー法）成立 6 月 ・2「富士山」が世界文化遺産に登録 7 月 ・第 23 回参議院議員通常選挙 8 月 ・鹿児島・桜島が爆発的噴火 9 月 ・最高裁、婚外子の相続差別に違憲判断

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 25 年 (2013 年)	<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広島丸」体験航海（関門港ポート天国） ・「ちくぜん」体験航海 ・旧大連航路上屋オープン ・第 14 回北九州港・大連港友好港会議開催 ・クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」寄港 ・くきのうみ花火の祭典 ・「風力発電施設見学会～グローバルウインドデイ 2013 in 北九州～」開催 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ・ミニ・トライアスロン ・関門海峡花火大会 ・クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」寄港 ・岩屋サーフィン体験教室開催 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州空港まつり <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内航フェリーセミナー開催（長距離フェリー三社が船舶リブレイス計画発表） ・津村島緑地オープン ・新門司Ⅱ期地区（その 2）2-3-2-3-1 工区埋立地 24,607.03 m²竣功認可告示 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外ポートセールス事業「台湾ミッション」派遣 ・帆船「日本丸」「海王丸」寄港 ・「みなとや海辺の活動支援」パネル展 ・「北九州港みなとや海辺づくり大賞」表彰式 ・日本貨物航空が、台湾桃園＝北九州＝成田路線を就航 ・門司ビーチサッカー体験教室開催 ・北九州空港で初めて Sea&Air 輸送を実施 ・第 55 回 地方港湾審議会開催 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州港港湾計画の軽易な変更（概要の公告） 	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市制 50 周年記念 若戸大橋ウォーキング開催 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市制 50 周年記念国際車椅子バスケットボール大会開催 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市基本計画変更 	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR九州の豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」が運行開始 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性初のキャロライン・ケネディ新駐日米大使が着任 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録 ・中国の探査機が月面着陸、旧ソ連、米国に次いで3か国目
平成 26 年 (2014 年)	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北九州港に関するパネル展」 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州港セミナー（東京）開催 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関門海峡クルージング ・門司海員会館閉館 <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州空港 乗降客 1,000 万人を達成 ・響灘西地区 A2-1 区域 1 工区、B2-1 区域 2 工区埋立地 202,220.62 m²竣功認可告示 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帆船「日本丸」寄港 ・門司みなと祭 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹港タイ・レムチャバン港研修生受入 ・くきのうみ花火の祭典 ・「広島丸」体験航海（関門港ポート天国） ・第 14 回北九州港・大連港友好港会議開催 ・関門海峡クルージング ・「風力発電施設見学会～グローバルウインドデイ 2014 in 北九州～」開催 ・響新港区へ大型 LNG 船入港（ひびき LNG） <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ・ミニ・トライアスロン ・「Port of MOJI」クルーズセミナー開催 ・関門海峡花火大会 	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を日本政府からユネスコに正式推薦 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市子どもの未来をひらく教育プラン改訂 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸畑図書館移転開館 <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム・ハイフォン市と姉妹都市締結 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境マスコットキャラクター「ていたん」の友だちとして「ブラックていたん」誕生 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもひまわり学習塾」事業開始 	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南極観測船「しらせ」3年ぶりに昭和基地沖に接岸 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシアで初の冬季五輪・ソチ五輪開幕 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソチパラリンピックが開幕 <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税 8% スタート <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 11 日を国民の祝日「山の日」と定める改正祝日法が成立 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコの世界遺産委員会が「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界文化遺産に登録することを決定 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁が台風で初の特別警報発表

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 26 年 (2014 年)	9月・北九州空港まつり 10月・北九州市物流シンポジウム 2014～更なる物流拠点化を目指して～開催 ・洞海湾クルージング ・フランス客船「ロストラル」寄港 11月・東アジアで初めて「グリーンアワード・プログラム」に参加 ・海外ポートセールス事業「大連ミッション」派遣 ・「みなとや海辺の活動支援」パネル展 12月・北九州空港将来ビジョンシンポジウム～北九州の未来は空港から～開催 ・海事広報艇「みらい」運航終了	7月・北九州市安全・安心条例施行 9月・北九州国際漫画フェスタ開催 10月・門司ゴルフ倶楽部クラブハウス国登録有形文化財に登録 11月・「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」策定 12月・九州鉄道記念館（旧九州鉄道本社）国登録有形文化財に登録	8月・パナマ運河が開通から100年 9月・錦織圭が全米オープンテニスで男女を通じ日本選手初となる四大大会シングルスで準優勝 10月・青色発光ダイオードを開発した日本の赤碕勇、天野浩、中村修二の3氏がノーベル物理学賞を受賞 11月・映画俳優の高倉健死去 12月・小惑星探査機「はやぶさ2」打ち上げ
平成 27 年 (2015 年)	1月・「北九州港に関するパネル展」 ・阪九フェリー新造船「いずみ」就航 ・第56回北九州市地方港湾審議会 開催 ・北九州港物流勉強会開催 2月・北九州港セミナー（東京）開催 ・太刀浦 10号クレーン供用開始 3月・北九州空港に大型貨物専用機の最新鋭機「B747-8F」就航 ・フェリー会社4社と『災害時における船舶での輸送等の協力に関する協定』を締結 ・フジドリームエアラインズが、名古屋小牧線を就航 4月・阪九フェリー新造船「ひびき」就航 5月・第57回北九州市地方港湾審議会 開催 ・練習船「青雲丸」寄港 ・門司みなと祭 7月・カンボジア王国フンセン首相、北九州空港に到着 ・北九州空港エアポートバス小倉線の増便（航空便全便対応・一部定時運行）、福北リムジンの運行開始 ・くきのうみ花火の祭典 ・北九州港クルージング（関門港ポート天国） ・「風力発電施設見学会～グローバルウインドデイ 2015 in 北九州～」開催 ・「響灘エネルギー産業拠点化推進期成会」設立 8月・第2回「PORT of MOJI」クルーズセミナーの開催 ・ミニ・ミニ・トライアスロン ・関門海峡花火大会 ・関門海峡クルージング	1月・第14回北九州市長選挙 北橋健治氏当選（3選） 2月・林芙美子記念室リニューアルオープン 3月・合唱組曲「北九州」演奏会開催 7月・カンボジア王国フン・セン首相来市 9月・1万人の防犯パトロール大作戦実施 10月・小倉焼さうどんギネス世界記録挑戦イベント開催 11月・第12回北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会開催 12月・株式会社北九州パワー設立	1月・全国高校ラグビーで東福岡高校が3大会ぶり5度目の優勝 3月・独ジャーマンウィングス機がフランス南東部山中に墜落、乗客乗員150人全員が死亡 4月・福岡県知事選挙及び福岡県議会議員一般選挙 6月・日本年金機構はサイバー攻撃を受け年金情報約125万件が流出したと発表 7月・「明治日本の産業革命遺産」（福岡など8県、23資産）の世界文化遺産への登録決定 8月・民事再生手続き中のスカイマークの再建計画案について、ANAが支援する公共施設マネジメント案に東京地裁が認可を決定 9月・スポーツ庁初代長官に水泳金メダリストの鈴木大地氏 10月・マイナンバー（社会保障・税番号）法施行

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 27 年 (2015 年)	<p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> クルーズ船「シルバー・ディスカバラー」寄港 名門大洋フェリー新造船「おおさかⅡ」就航 クルーズ船「飛鳥Ⅱ」寄港 北九州空港まつり <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 58 回北九州市地方港湾審議会 開催 クルーズ船「ル・ソレアル」寄港 第 52 回全国港湾労働災害防止大会 「ひびきコンテナターミナル」でのクルーズ船受入開始 北九州港クルージング <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> 「クルーズせとうち」セミナーの開催 海外ポートセールス事業「ハイフォンミッション」派遣 名門大洋フェリー新造船「きたきゅうしゅうⅡ」就航 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みなとや海辺の活動支援」パネル展 北九州空港観光セミナー開催 		<p>11月・パリ同時テロ発生</p> <p>12月・2015 年の訪日外国人旅行者数が 1,900 万人を突破</p>
平成 28 年 (2016 年)	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> オーシャントランス新造船「フェリーびざん」就航 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州港セミナー（東京）開催 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州空港開港 10 周年 <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> G7 エネルギー大臣会合でイタリア政府専用機飛来、各国代表も北九州空港を利用 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> クルーズ船「ル・ソレアル」寄港（門司・西海岸） 日本丸入港（歓迎式典・セイルドリル・登橋礼） 響灘エネルギー産業拠点化推進期成会 理事会・定期総会 開催 門司みなとまつり オーシャントランス新造船「フェリーしまんと」就航 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> 響灘東地区処分場の公有水面埋立免許取得 超大型貨物輸送機「アントノフ 124」が北九州空港に飛来 北九州港港湾区域を拡張（響灘地区） クルーズ船「チャイニーズ・タイシャン」寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ※ひびきコンテナターミナルで初のクルーズ受入 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ラッピングモノレール「北九州空港開港 10 周年記念号」出発式 北九州港クルージング オーシャントランス新造船「フェリーどうご」就航 くきのうみ花火の祭典 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州港物流勉強会開催 ミニモニトライアスロン 関門海峡花火大会 響灘地区におけるバイオマス専燃火力発電所設置運営事業者の公募について優先交渉者として 2 社を選定 関門海峡クルージング クルーズ船「にっぽん丸」寄港（門司・西海岸） 	<p>1月・全国学生安全・安心ボランティアサミット北九州開催</p> <p>3月・カンボジア王国プノンペン都と姉妹都市協定締結</p> <p>4月・北九州市立大学新図書館（図書館本館）開催</p> <p>5月・ウーマンワークカフェ北九州開設</p> <p>6月・2016 年バラ・パワーリフティングジャパンカップ開催</p> <p>7月・門司港バナナ資料室の開設</p> <p>8月・「シニア・ハローワーク戸畑」開設</p> <p>9月・子ども食堂開設</p> <p>11月・第 2 回世界獣医師会 - 世界医師会 “One Health” に関する国際会議開催</p> <p>12月・戸畑祇園大山笠行事を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録決定</p>	<p>1月・マイナンバー運用開始</p> <p>2月・指揮者の小澤征爾が最優秀オペラ録音部門でグラミー賞受賞</p> <p>3月・国土交通省が福岡空港を「混雑空港」に指定</p> <p>5月・熊本地震 M7.3 の本震発生</p> <p>6月・選挙権年齢を 18 歳以上に引き下げる改タイ王国ジュニア卓球チーム合宿の実 正公職選挙法が施行される</p> <p>7月・第 24 回参議院議員通常選挙</p> <p>8月・リオ五輪開幕</p> <p>9月・史上最年少プロ棋士決定 藤井聡太三段</p> <p>10月・東京工業大学栄誉教授の大隅良典氏がノーベル医学生理学賞に決まる</p> <p>11月・博多駅前道路で大規模陥没発生</p> <p>12月・糸魚川市で大火、156 棟焼損、過去 20 年で最多</p>

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 28 年 (2016 年)	<p>9月 ・クルーズ船「コスタ・フォーチュナ」寄港（若松・ひびきコンテナターミナル）</p> <p>・オーシャントランス新造船「フェリーのつりん」就航</p> <p>・クルーズ船「シルバー・ディスカバラー」寄港（門司・西海岸）</p> <p>・北九州空港まつり</p> <p>・クルーズ船「飛鳥Ⅱ」寄港（門司・西海岸）</p> <p>10月 ・クルーズ船「ばしふいっく びいなす」寄港（門司・西海岸）</p> <p>・Port of Kitakyushu クルーズセミナー</p> <p>・北九州港セミナー（東京）開催</p> <p>・北九州空港開港 10 周年記念 地域航空フォーラム</p> <p>・天津航空による「北九州＝中国・大連」定期航路就航</p> <p>11月 ・「北九州空港インバウンド観光振興セミナー」開催</p> <p>・「新・海辺のマスタープラン」中間見直し策定</p> <p>・第 59 回北九州市地方港湾審議会開催</p> <p>12月 ・ジンエアーによる韓国・釜山定期航路就航</p>		
平成 29 年 (2017 年)	<p>2月 ・響灘洋上風力発電施設の設置・運営事業に係る事業者の公募について優先交渉者を選定</p> <p>3月 ・クルーズ船「スカイシー・ゴールデンエラ」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル）</p> <p>・北九州空港開港 11 周年</p> <p>・5th TACTOS 稼働開始</p> <p>4月 ・クルーズ船「コスタ・セレーナ」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル）</p> <p>・平成 28 年北九州港コンテナ取扱数 4 年ぶりに 50 万 TEU を超えたことを公表</p> <p>5月 ・クルーズ船「ブレイメン」初寄港（門司・西海岸）</p> <p>・響灘エネルギー産業拠点化推進期成会 理事会・定期総会開催</p> <p>・クルーズ船「オベーション・オブ・ザ・シーズ」（16 万トン級）初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル）</p> <p>・門司みなと祭</p> <p>・銀河丸入港（一般公開・シブスクール開催）</p> <p>6月 ・クルーズ船「コスタ・アトランチカ」「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」「ノルウェージャン・ジョイ」「マリナー・オブ・ザ・シーズ」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル）</p> <p>7月 ・スターフライヤーによる「那覇」季節便就航</p> <p>・平成 29 年度航空乗継利用促進協議会総会が、北九州市で開催</p> <p>・クルーズ船「マジェスティック・プリンセス」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル）</p> <p>・くきのうみ花火の祭典</p> <p>・風力発電施設見学会～グローバルウィンドデイ 2017 in 北九州～開催</p>	<p>1月・第 14 回市議会議員一般選挙</p> <p>2月・ラグビートップリーグオールスター『FOR ALL チャリティーマッチ 2017』開催</p> <p>3月・旧八幡市制 100 周年記念式典開催</p> <p>4月・「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」が日本遺産に認定</p> <p>7月・クロス乾杯で世界記録達成</p> <p>9月・特定外来生物「ヒアリ」が北九州市で初めて確認される</p> <p>10月・天皇后両陛下 第 37 回全国豊かな海づくり大会等に伴う行幸啓</p> <p>11月・ダバオ市と「環境姉妹都市」の覚書締結</p> <p>12月・テーマパーク「スペースワールド」閉園 27 年の歴史に幕</p>	<p>2月・「プレミアムフライデー」始まる</p> <p>3月・北朝鮮、日本海に向け弾道ミサイル 4 発を発射</p> <p>4月・名古屋市にテーマパーク「レゴランド・ジャパン」開業</p> <p>6月・上野動物園でパンダの赤ちゃん誕生</p> <p>7月・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、世界文化遺産への登録決定</p> <p>8月・世界陸上 2017 の男子 4 × 100m リレーで日本が初の銅メダル</p> <p>9月・メキシコで M7.1 の地震 22 日までに 293 人が死亡</p> <p>10月・第 48 回衆議院議員総選挙及び第 24 回最高裁判所裁判官国民審査</p> <p>11月・第 98 代内閣総理大臣に安倍晋三自民党総裁が選出</p>

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成 29 年 (2017 年)	8月 ・ミニ・ミニ・トリアスロン ・関門海峡花火大会 ・関門海峡クルージング 9月 ・キャリムエンジニアリング RORO 船「PATHFINDER」 初入港 ・クルーズ船「飛鳥 II」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・北九州空港まつり 10月 ・クルーズ船「グローリー・シー」初寄港（門司・西海岸） ・第 6 次 NACCS 稼働開始 ・北九州港セミナー（東京）開催 ・姉妹港・レムチャパン港研修生受入れ ・砂津緑地にて天皇皇后両陛下下提灯奉迎 11月 ・四国への船旅 市民モニタークルーズ ・東進海運が釜山～門司航路を新規開設 ・第 60 回北九州市地方港湾審議会開催 12月 ・北九州空港-韓国定期便就航 1 周年記念「韓国フェスタ」 開催 ・友好港・大連港研修生受入れ ・北九州空港名古屋小牧線 PR「愛知キャラバン隊」市長表敬訪問・PR イベント開催		
平成 30 年 (2018 年)	1月 ・響灘洋上風力発電施設の設置・運営事業に係る基本協定を締結 2月 ・北九州港物流セミナー in 宮若 3月 ・北九州空港開港 12 周年感謝祭 ・トヨタ車揚積 500 万台達成記念行事 ・風力発電総合拠点化シンポジウム 4月 ・北九州港港湾施設（門司地区）に指定管理者制度を導入 ・ONE がハイフォン・高雄・基隆～門司航路を新規開設 ・MCC トランスポートが釜山～ひびき航路を新規開設 ・港湾統計発表（平成 29 年のコンテナ・フェリー・貨物量が過去最高） 5月 ・門司みなと祭 ・銀河丸寄港 ・コリアエクスプレスエアによる「韓国・務安、襄陽」定期航路就航 ・響灘エネルギー産業拠点化推進期成会理事会・定期総会開催 6月 ・ANACargo による「北九州＝那覇＝アジア主要都市」貨物定期便就航 ・洋上風力先進都市視察（ドイツ・ブレーマーハーフェン）	1月 ・第 29 回選抜女子駅伝北九州大会開催 2月 ・北九州市制 55 周年記念式典開催 3月 ・小倉南図書館開館 4月 ・OECD の「SDGs」推進に向けた世界のモデル都市」に選定 6月 ・国の「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」に選定 7月 ・北九州市パートナーシップ宣言制度導入 8月 ・2020 年「東アジア文化都市」国内都市に選定 9月 ・桃園市民プール（屋外）廃止（八幡東） 10月 ・1 万人の防犯パトロール大作戦実施	1月 ・第 94 回東京箱根間往復大学駅伝競走で青山学院大学が 4 連覇達成 2月 ・第 23 回冬季オリンピック競技平昌（ピョンチャン）大会開幕 3月 ・スキージャンプワールドカップ（W杯）で渡部暁斗選手が初の総合優勝 4月 ・第 122 回ボストンマラソン男子で河内優輝選手が優勝 6月 ・テニス全仏オープン車いす部門男子シングルスで国枝慎吾、女子シングルスで上地結衣選手が優勝 7月 ・西日本豪雨により岡山県倉敷市真備地区で広範囲に浸水 8月 ・バドミントンの世界選手権男子シングルスで桃田賢斗選手が日本人初優勝

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成30年 (2018年)	<p>7月・阪九フェリー就航50周年記念せとうちデイクルーズ ・くきのうみ花火の祭典 ・関門海峡クルージング ・風力発電施設見学会～グローバルウィンドデイ2018in北九州</p> <p>8月・ミニ・ミニ・トリアスロン ・関門海峡花火大会</p> <p>9月・クルーズ船「スーパースター・ヴァーゴ」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・北九州空港まつり</p> <p>10月・スターフライヤーによる「台湾・台北」定期航路就航 ・北九州港セミナー（東京）開催</p> <p>11月・ティーウェイによる「韓国・務安」定期航路就航 ・第61回北九州市地方港湾審議会開催</p> <p>12月・大連港（友好港）へ研修生派遣 ・株式会社SHKライン横須賀港～北九州港新規フェリー航路開設計画を公表</p>	<p>11月・新・市立総合療育センター供用開始</p> <p>12月・若戸大橋ライトアップ開始</p>	<p>9月・台風21号で関西国際空港の連絡橋にタンカーが衝突し同空港が孤立</p> <p>10月・東京都中央卸売市場築地市場（中央区）が開場 83年の歴史に幕</p> <p>11月・質量の単位キログラムの定義が130年ぶりに改定</p> <p>12月・改正水道法成立、民間に運営権促進</p>
平成31年／ 令和元年 (2019年)	<p>2月・北九州港物流セミナーin山口開催</p> <p>3月・クルーズ船「クイーン・メリー2」北九州初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・北九州港湾物流効率化特区認定 ・マルエーフェリー・南海海運 沖縄 RORO 航路を新規開設 ・フジドリームエアラインズによる「静岡」定期路線就航</p> <p>4月・クルーズ船「アザマラ・クエスト」北九州初寄港（門司・西海岸）</p> <p>5月・クルーズ船「シルバー・エクスプローラー」「シーボーン・ソジャー」北九州初寄港（門司・西海岸） ・響灘エネルギー産業拠点化推進期成会理事会・定期総会開催 ・銀河丸入港 ・門司みなと祭</p> <p>6月・響灘遊歩道緑地 供用開始 ・新門司Ⅱ期地区（その2）2-3-2-3-2-1 工区埋立地 8,950.62㎡竣功認可告示</p> <p>7月・第44回海洋開発シンポジウム（2019）前日シンポジウム ・第9回CDTI-NEDO合同ワークショップ ・くきのうみ花火の祭典 ・関門海峡クルージング ・風力発電施設見学会～グローバルウィンドデイ2019in北九州 ・クルーズ船「コスタ・パネチア」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・響灘東D地区2-2-2-2 工区埋立地 364,856.77㎡竣功認可告示</p>	<p>1月・第15回北九州市長選挙 北橋健治氏当選（4選）</p> <p>3月・門司港駅グランドオープン</p> <p>4月・水環境館リニューアルオープン</p> <p>6月・北九州市と株式会社サンレーが災害時における協定を締結</p> <p>7月・小倉祇園太鼓 400周年</p> <p>8月・九州北部で大雨</p> <p>9月・ラグビーウェールズ代表、ミニワールドスタジアム北九州で公開練習</p> <p>11月・発酵 JAPANin 北九州</p> <p>12月・アジア MANGA サミット北九州大会</p>	<p>2月・はやぶさ2、「りゅうぐう」着陸成功</p> <p>3月・メジャーリーグ、イチロー引退</p> <p>4月・仏パリ、ノートルダム大聖堂で火災</p> <p>5月・令和に改元</p> <p>6月・米大統領、北朝鮮初訪問</p> <p>7月・京都アニメーション放火殺人事件発生</p> <p>8月・政府、韓国のホワイト国除外決定</p> <p>9月・ラグビーW杯開幕</p> <p>10月・消費税10%スタート</p> <p>11月・ローマ教皇が38年ぶり来日</p> <p>12月・アフガンで銃撃、中村哲医師死亡</p>

Ⅲ. 資料

年号	北九州港・北九州空港	北九州域	国内・世界
平成31年／ 令和元年 (2019年)	8月 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ・ミニ・トライアスロン ・大島丸親子体験航海 ・中国東方航空による「中国・大連」定期路線就航 9月 <ul style="list-style-type: none"> ・KMTC ロシア（ウラジオストク）～門司航路を新規開設 ・「若松港築港関連施設群」が土木学会選奨土木遺産に認定 ・クルーズ船「セレブリティ・ミレニアム」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・北九州空港まつり ・クルーズ船「コスタ・ネオロマンチカ」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・新門司Ⅱ期地区（その2）2-3-2-3-2-2 工区埋立地22,134.12㎡竣功認可告示 10月 <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船「MSC スプレントィダ」初寄港（若松・ひびきコンテナターミナル） ・北九州港セミナー（東京）開催 ・JWPA10周年記念洋上風力シンポジウム 11月 <ul style="list-style-type: none"> ・第62回北九州市地方港湾審議会開催 ・北九州港開港130周年記念式典及び記念事業 ・大韓航空による「北九州＝韓国・仁川ハブ経由」国際貨物定期便就航 		

編集後記

この追録は、1990年に発行された、100年史を追補する形で、10年ごとに刊行し、北九州市の港湾、空港関係の出来事をまとめ、記録をすることを目的としています。

この追録では、2010年から2019年の出来事をまとめています。この10年間は、2011年の東日本大震災や、熊本地震、西日本豪雨等、未曾有の天災に見舞われた10年間でありました。

また、2019年に平成から令和へと元号も改元され、新たな時代へと転換した節目でもあります。

この発行年である2020年時点では、新型コロナウイルスが猛威を振るい、社会生活に大きな影響を与えている現状です。

しかし、IT技術の活用や新しい生活様式の確立などにより、平穏を取り戻しつつもあります。

10年後の追録発行の折には、この疫災が克服され、平穏な日常を取り戻し、過去の事として語られていることを期待します。

さて、特に本市の港湾空港行政についてこの10年を振り返ると、2010年の北九州空港における乗降客500万人達成を皮切りに、「グリーンアジア国際戦略総合特区」への指定や、新若戸道路の供用開始、クルーズ船の来港、市民太陽光発電所の開設等、多くの喜ばしい出来事もありました。

これもひとえに、市民の皆様、港湾空港関係の民間事業者の皆様、関係機関の皆様のご理解とご協力があったことです。改めまして、これまでの皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。

また、この追録の作成に当たり、一般社団法人北九州港振興協会より、資料のご恵与を頂きましたことについて、深く感謝を申し上げます。

この追録が、北九州市の港湾空港関係者の皆様の参考になり、また、後世に活用されることを祈念します。



発行者：北九州市 港湾空港局

発行年月：令和2年12月

北九州市印刷物登録番号：第2016005A